岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成5年度)

平成6年3月

岩手県教育委員会

埋蔵文化財は、私たちの先祖より永く培われてきた貴重な歴史資料であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき保護・活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかるために、遺跡の性格・所在地・範囲等を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、市町村教育委員会のご協力も得て、現在県内で確認されている遺跡数は8,700余ケ所にものぼります。これらの遺跡の周知徹底を計る必要があると共に、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より、年度毎に報告書を作成しております。

本報告書は、平成5年度に実施した県内遺跡の発掘調査・試掘調査・分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位からご協力・ご指導を賜りましたこと に対し心より感謝申し上げます。

平成6年3月

岩手県教育委員会 教育長 千 葉 浩 一

例 言

- 1. 本書は、岩手県教育委員会が平成5年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2. 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3. 遺跡位置図は、国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業所より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載した。
- 4. 試掘調査に係る遺跡の推定範囲については、スクリーントーンで示し、試掘溝は実線で示した。
- 5. 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 6. 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の小田野哲憲主任 文化財主査、熊谷常正・中村英俊文化財主査が担当した。なお、整理については、下記の方々 のご協力をいただいた。

小野寺泰憲、松本恵利子、恵津森礼子

7. 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

目 次

字	文
列	
	発掘調査
	1. 県営農村活性化住環境整備事業 $[$ 大桜地区 $]$ 関連調査 \cdots 3
	(1) 大桜遺跡
	(2) 目呂木本杉遺跡
	2. 県営ほ場整備事業 [愛宕南部地区] 関連調査20
	(1) 観音堂沖遺跡
	3. 農免農道整備事業 [前沢 2 期地区] 関連調査
	(1) 明後沢遺跡
	4. 農免農道整備事業 [上野地区] 関連調査32
	(1) 北館G遺跡
	5. 早池峰ダム建設事業関連・・・・・・40
	(1) 人中遺跡
	= b.to =00-4-
	試掘調 <u>查</u>
	1. 県営ほ場整備事業 [宮手・稲藤地区] 関連調査·······45
	(1) 上平沢新田遺跡 2. 東北横断自動車道秋田線建設関連調査47
	2. 果北傾倒日動車追饮四線建設岌建調宜47 (1) 本内II遺跡
	3. 町道種市漁港線道路改良事業関連調査49
	(1) ゴッソー遺跡
	4. ふるさと農道整備事業 [牧田・福伏地区] 関連調査
	(1) 牧田貝塚
	5. 農免農道整備事業 [浜岩泉地区] 関連調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	(1) 浜岩泉 I 遺跡
	6. 広域農道整備事業 [軽米・九戸地区] 関連調査······55
	(1) 長倉 I 遺跡
	7. 北本内ダム建設事業関連調査
	(1) 本内遺跡
	8. 鷹生ダム建設関連調査
	(1) 上甲子遺跡
	9. 県立胆沢病院移転候補地関連調査60
	(1) 龍ケ馬場遺跡
	10 その他の試掘調査

III	分布調査
	県立胆沢病院移転候補地関連調査
	一関遊水地事業関連調査
	家畜改良センター岩手牧場草地造成事業関連調査
	県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区関連調査
	県営ほ場整備事業[小友地区]関連調査
	県営ほ場整備事業[徳田第一地区]関連調査
	県営ほ場整備事業[和賀中央第四地区]関連調査
	一般農道整備事業[赤屋敷地区]関連調査
	広域農道整備事業[軽米九戸地区]関連調査
	北上川上流日形地区築堤事業関連調査
	農免農道整備事業[新町第一地区]関連調査
	一般農道整備事業[豊畑地区]関連調査
	農免農道整備事業[奥玉北地区]関連調査
	岩手県農業研究センター県北農業技術センター(仮称)関連調査
	県営ほ場整備事業[宮野目第一地区]関連調査
	水環境整備事業[乙女川地区]関連調査
	国道340号道路改良[岩泉横道地区] 関連調査
	県営ほ場整備事業[湯本第四地区]関連調査
	県営ふるさと農道緊急整備事業[牧田・福伏地区]関連調査
	黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連調査
	主要地方道水沢人首線[桜沢地区]道路改良事業関連調査
	かんがい水路建設事業[一方井地区]関連調査
	国道45号普代バイパス建設事業関連調査
	農免農道整備事業[松石地区]関連調査
	一般農道整備事業[滝地区]関連調査
	農免農道整備事業[五日市湯沢地区]関連調査
	県営ふるさと農道緊急整備事業[目名市地区]関連調査
	県営ふるさと農道緊急整備事業[柴波中央地区]関連調査
IV	写真図版75

I 発掘調査

1. 県営農村活性化住環境整備事業 [大桜地区] 関連調査

(1) 大桜遺跡

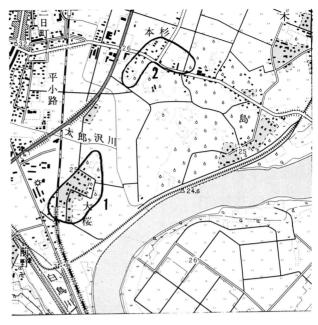
所在地:胆沢郡前沢町字大桜

調査期日:平成5年11月1日~

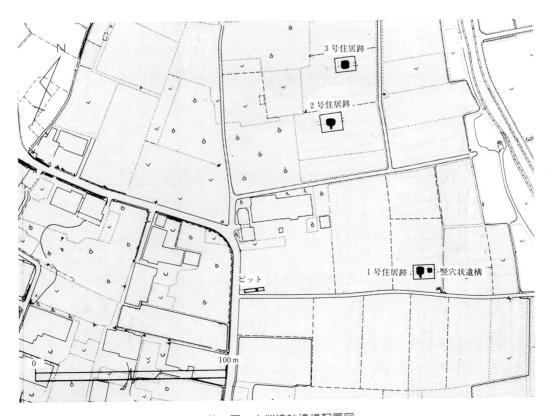
12月2日

本遺跡は、北上川及び支流である 白鳥川によって形成された沖積平野 の微高地上に立地し、標高は25m ~26mを測る。周囲の水田との比高 差は1m内外である。

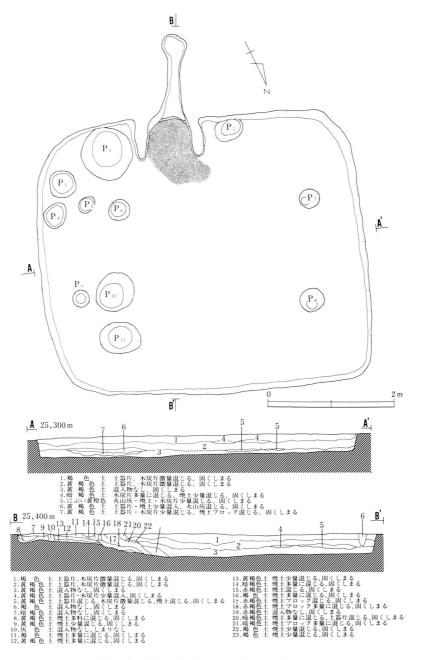
本遺跡の南側 1 kmほどの範囲に、 瀬原栅跡・白鳥館をはじめ、安倍氏・ 藤原氏関連の遺跡があり、今回の調 査エリアはそれらとの関連が想定さ れていたが、開発行為がほとんどな



第 | 図



第2図 大桜遺跡遺構配置図



第3図 大桜遺跡第1号住居跡平・断面図

く、今まで発掘調査が行なわれたことはない。

今年度は場整備関連の事業が入ることになり、試掘調査を実施したところ、第2図のとおり 住居跡等の多数の遺構が検出された。遺構については、保存することを前提に事業者側と設計 変更についての協議を行ったが、やむを得ないものについてのみ記録保存のための発掘調査を 実施することとした。

①第1号住居跡

[遺構] (第3図参照)

1号住居跡は、本遺跡の南東壁にあり検出面の標高25.2mを測る。主軸を南北から約30° 東に寄る方向に持ち、1辺5.1m×4.3mの隅丸方形の形を呈す住居である。検出出面から床 まで約30cm内外を測り、埋土中に木炭小片及び灰白色火山灰が混じる。

カマドは住居南壁の中央部からやや東寄りに位置し、南側に約1.5mほど伸びる煙道を持つ。 焚口部から住居床面西側にやや広がる形で焼土が見られた。

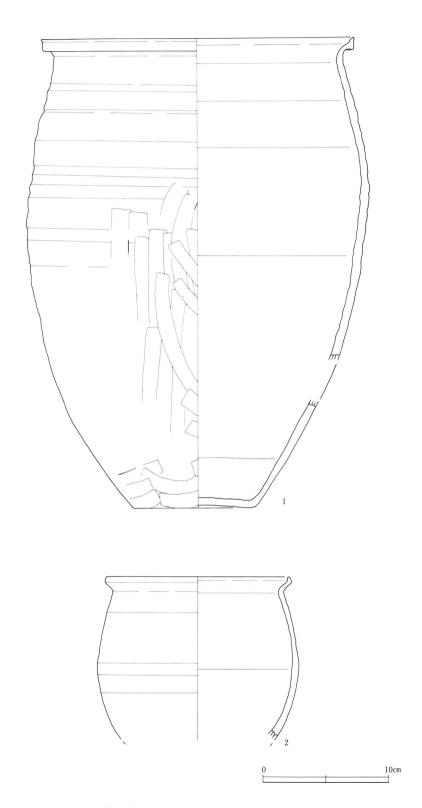
ピットは大小11基検出された。 P_1 はカマド左袖の東寄りにあり、径約85cmのほぼ円形を呈し深さは約45cmを測る。埋土中には多量の遺物が含まれていた。 $P_2 \sim P_5$ は径25cm~45cmで深さ20cm~40cmのピットであるが、埋土中に遺物は見られなかった。 $P_6 \sim P_8$ は住居に伴う柱穴と思われる。いずれも径40cm内外深さ35cm内外を測るものである。 P_9 は径25cm深さ30cmを測るピットであるが、埋土中に遺物は見られなかった。 $P_{10} \cdot P_{11}$ は径約60cm深さ約40cmを測り、いずれも埋土中に多量の木炭片・焼土が見られ、土師器細片が含まれていた。住居の平面プランから見れば、埋土の状況は異なるものの、 P_{11} は $P_6 \sim P_8$ に対応する住居の柱穴になる可能性がある。

[遺物] (第4図·第5図参照)

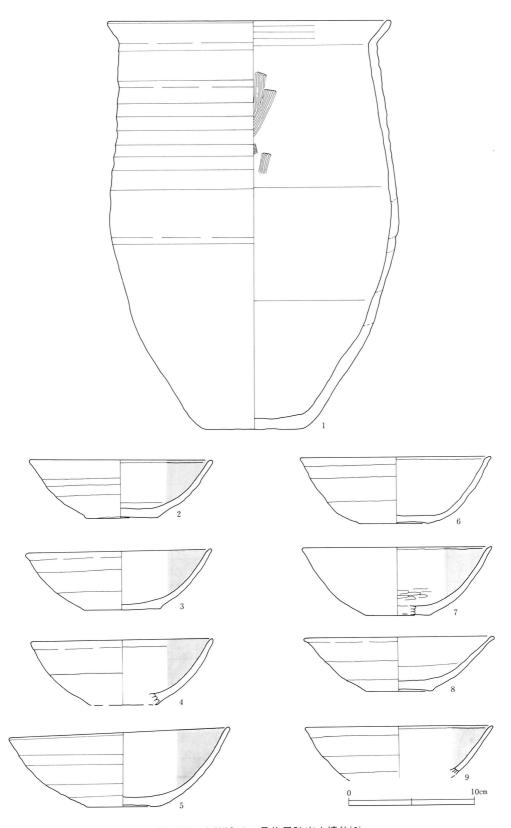
1号住居跡では、埋土中・カマド内及びカマド左袖横のピット内から多量の遺物が出土しているが、その中で図化できたものは、第4図・第5図に示したとおり11点である。以下その概略について述べてみたい。

第4図はカマド内から出土したロクロ成形の土師器甕である。1は口径25cm、器高37.5cmを測り、最大系を肩部から胴部にかけて持つ長胴甕である。体部外面では縦方向に、底部では横方向にケズリが見られる。口縁部は外反し、口唇部はほぼ真横に挽き出されて、断面形は三角形となる。2は最大径を体部中央に持つ小型の甕である。口縁部は外反し、口唇部は上方に挽き出されている。

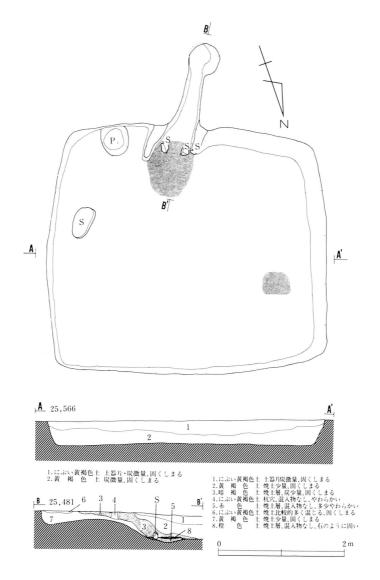
第5図はカマド袖横のピット (P_1) から出土した土師器甕及び坏である。 1 は体部中央よりやや下に最大径を持つロクロ成形の長胴甕である。口径22.7cm、器高32.5cmを測る。 $2\sim9$ はいずれも回転系切りの土師器坏である。内面が黒色処理されているものが 6 点($2\sim5$ ・7・9)、内面がヘラミガキされているものが 1 点(7)である。また $2\sim4$ ・ $6\sim9$ については、口径15cm器高 5 cm前後の法量であるが、5 だけは口径17.5cm、器高 6 cmを測る。



第4図 大桜遺跡 | 号住居跡出土遺物(1)



第5図 大桜遺跡 | 号住居跡出土遺物(2)



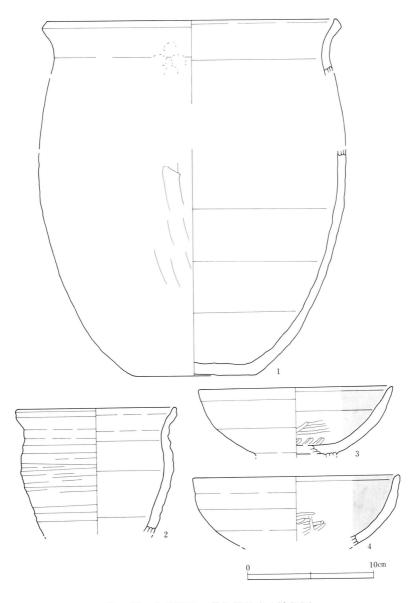
第6回 大桜遺跡第2号住居跡平·断面図

住居跡の埋土中に見られる灰白色火山灰が十和田 a 降下火山灰と想定されること、また遺物の概観から、この住居跡については10 C 後半の住居跡と考える。

②第2号住居跡

〔遺構〕(第6図参照)

2号住居跡は、本遺跡の中央部やや南寄りにある平安時代の竪穴住居跡であり、検出面の標高25.4mを測る。主軸は1号住居跡とほとんど同じ方向で、南北から南へ約30°寄る。一辺4.5m×4mの隅丸方形を呈し検出面から床までは40cm前後である。埋土は2層に分けられ、



第7図 大桜遺跡2号住居跡出土遺物(3)

人工的に埋め戻されたものと考えられる。カマドは南壁中央部に位置し、南東側やや曲がって伸びる約1.5mほどの煙道を持つ。焚口部には70cm×80cmの範囲で焼土が広がっている。煙土は住居両壁中央部寄りにも1ケ所見られた。

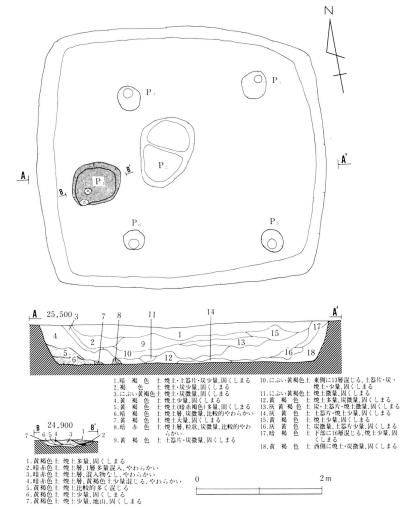
ピットはカマド左袖の横に1基検出された。径約50cmのほぼ円形を呈し、深さは45cmを測るが、埋土中の遺物は土師器破片のみ少量であった。住居に伴う柱穴は確認できなかった。

[遺物](第7図参照)

2号住居跡は出土 遺物量が少なかった が、第7図で図示し た遺物は、カマド内 及びカマド付近のも のである。

1はカマド内から 出土したロクロ成形 の土師器甕である。 口径23cm、器高は28. 5cmほどと推定され る。最大径を胴部中 央に持ち、外面に縦 方向のケズリが見ら れる。2は底部を欠 く壺である。口径13 cm、器高は12cm前後 と推定される。

3、4はいずれも 底部を欠くが、内面 にヘラミガキ及び黒 色処理が施された土 師器坏である。3は 高台付坏と思われる。

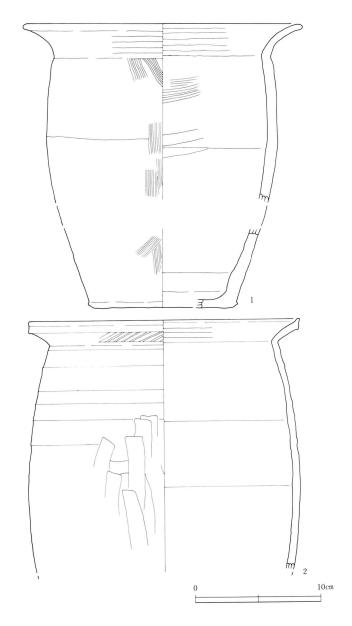


第8回 大桜遺跡第3号住居跡平·断面図

③第3号住居跡

[遺構] (第8図参照)

3号住居跡は、検出面の標高25.4mを測り、1辺4.5m×4.2mのほぼ方形を呈す。壁高は60cm~65cmを測る。カマドは見られず、大量に焼土が見られる P_1 が存在する。 P_1 は70cm×80 cmのやや隅丸方形状を呈し、深さは10cmである。 P_2 は長軸115cm、短軸85cmの楕円形を呈し底面がほぼ中央で2段に分かれる。住居ほぼ中央に位置するが、性格は不明である。



第9図 大桜遺跡出土遺物(4)

 $P_3 \sim P_6$ は住居に伴う柱穴である。いずれも径35cm ~ 40 cmのほぼ円形で深さは60cm ~ 70 cmを 測るが、斜方向に抜き取られた様相を呈す。

3号住居は平安時代の竪穴住居跡と思われるが、 $1 \cdot 2$ 号住居に比ベカマドを持たず、壁高が高く、柱穴が深いという特徴を持つ。このことが $1 \cdot 2$ 号住居に比べ異なるタイプの住

居形態なのか、あるいは住居以外の目 的で造られたものなのかについては、 この地域での発掘調査成果の集積を待 ちたい。

〔遺物〕(第9図参照)

3号住居跡で出土した遺物のうち図 化できたものは、第9図に示した2点 で、いずれも土師器甕である。

1は口縁部に最大径を持つ甕で、口径22.5cmである。体部内外面にハケメ調整が施され、口縁部が大きく外反する。底部は約¼の残存であるが、底面に木葉痕が見られる。2は最大径を胴部に持つ長胴甕である。体部外面に縦方向のケズリが見られ、口縁部は鋭く外反し、口唇部はほぼ真上に挽き出されている。口径は21.7cmを測る。

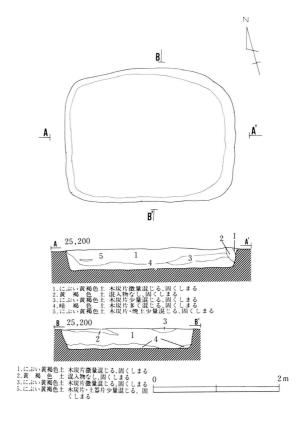
④竪穴状遺構(第10図参照)

第10図で示したものは、長辺2.7m、 短辺2.1m、壁高30cm前後の方形に掘り

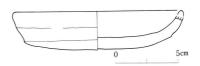
込まれた遺構である。1号住居跡の南約2mに位置する。埋土中に木炭片が少量見られるものの、柱穴は確認できず、遺物も出土していないため、時期・性格ともに不明の遺構である。

⑤ピット (第11図A・B参照)

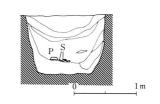
第11図で示したものは、かわらけを出土したピット及びかわらけである。ピットは径1.3m深さ0.95mを測るものである。かわらけは平泉町内での出土状況とは全く様相を異にし、口縁部の一部を欠くものを一個だ



第10図 大桜遺跡竪穴状遺構平·断面図



第II図A 大桜遺跡出土遺物(5)



第11図B 大桜遺跡ピット断面図

け大事に埋設した様子が窮え、120の庶民の墓壙の可能性が考えられる。

今回の調査で唯一12 C 遺構、遺物と推定できるものであるが、いずれ前沢町は11 C~12 Cにかけての庶民の暮しぶりを今後明らかにする上で貴重な地域と考えられる。

(2)目呂木本杉遺跡

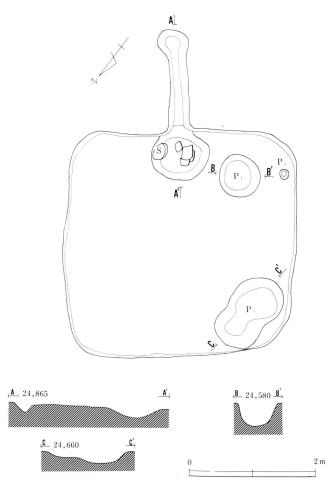
所在地:胆沢郡前沢町字高畑 調査期日:平成5年3月4日~6日

本遺跡は、前沢町市街地の東南、国道 4 号の東に近接して所在する。ここは、沖積地の開析が進み微高地上に取り残された低位段丘上に位置し、標高は25m前後であり、周囲の水田面とは比高差は約1 mである。

平成5年1月14日に試掘調査を実施しており、遺跡南端西側で平安時代の土師器片・須恵器片が出土し、焼土も検出されている。事業実施にあたり、事業者側と設計変更の協議を重ねたが、今回2調査区についてはやむを得ず発掘調査を実施することとした。なお、今回の調査区の東側で、かわらけ・陶器片が出土しており、その区域は設計変更により現状保存とした。



第12図 目呂木本杉遺跡遺構配置図



第13図 目呂木本杉遺跡第1号住居跡平・断面図

①第1号住居跡

〔遺構〕(第13図参照)

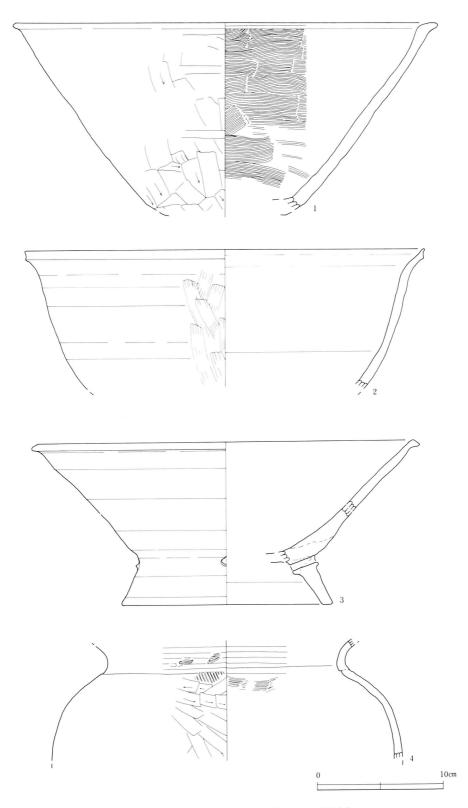
1号住居は本遺跡の南西端に位置する平安時代の竪穴住居跡であり、検出面の標高は、24.7mを測る。主軸を南東一北西方向に持ち、1辺3.6m~3.7mの隅丸方形を呈す。水田造成のため削平されており、壁高は約10cm~15cmしか残存しない。

カマドは住居南側のほぼ中 央部に位置し、南東方向に約 1.6mほど伸びる煙幕を持つ。 煙出し部は径約45cmのピット で、煙道底面から15cmほど掘 り込まれている。焚口部も円 形に掘り込まれており、径80 cm、深さ15cmを測る。

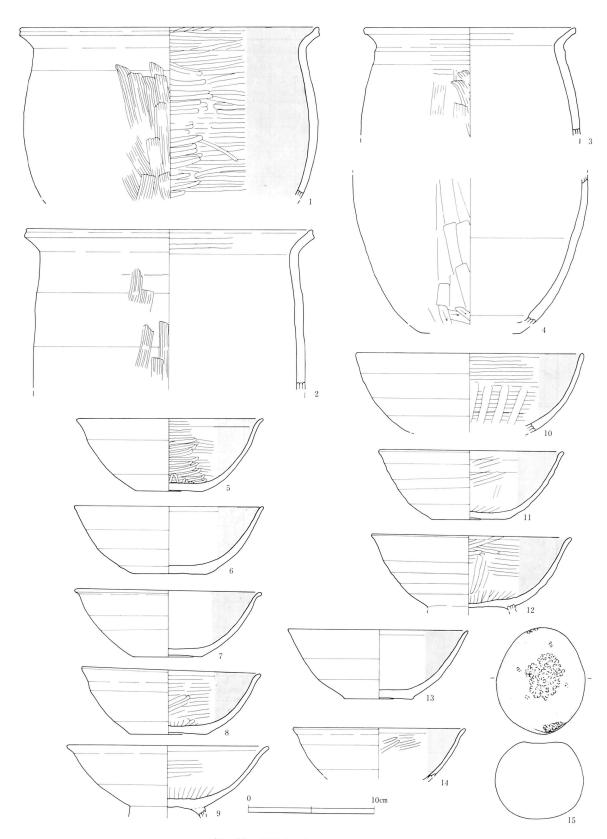
ピットは3基検出された。 P_1 はカマド袖の貯蔵穴と思われるもので、径70cm前後、深さ35cmを測る。 P_2 は径15cm、

深さ22cmを測るものであり、柱穴の可能性も考えられるが、一基だけであり壁に寄り過ぎていることもあって断定できない。 P_3 は住居北西隅にあるダルマ型のピットであり、住居に伴うものではあるが性格は不明である。明らかに住居に伴う柱穴については検出できなかった。 〔遺物〕(第14図・第15図参照)

1号住居ではカマド・カマド袖の貯蔵穴を中心に大量の遺物が出土している。その中で図化できたものを示した。第14図1・2はいずれも底部を欠き、器壁の厚さ・底部からの立ち上がり・口縁部の反り・口唇部のつくりに違いがあるが、堝に分類されるものであろう。3は口縁部・底部をそれぞれ反転実測したものであり、器壁の傾き及び口縁部と底部のつながりは明確ではない。底部に4ケ所穿孔されており、日常生活用具として用いられたものとは



第14図 目呂木本杉遺跡 | 号住居跡出土遺物(1)



第15図 目呂木本杉遺跡出土遺物(2)

考えにくいものである。 4 は口唇部・体部下半を欠く が、肩部に最大径を持つ球 胴甕である。第14図の遺物 はいずれもカマドから出土 した土師器である。

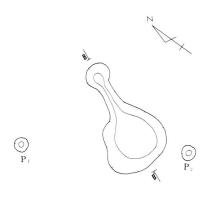
第15図1~4もカマドか ら出土したものである。い ずれも体部上・下半部のい ずれかを欠くが、土師器甕 の破片であり、1のみが内 面が黒色処理され、ヘラミ ガキされている。5~9も カマドから出土した土師器 坏である。5~8は内面黒 色処理が施され、いずれも 底部切り離しは回転糸切り による。9は底部を欠くが 高台付坏である。10、11は 住居床面から出土した内面 黒色処理、回転糸切りによ る土師器坏である。12~15

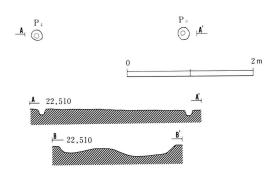
はカマド袖ピット出土の遺物である。12は土 師器高台付坏、13・14は土師器坏である。い ずれも内面黒色処理が施されている。

②第2号住居跡

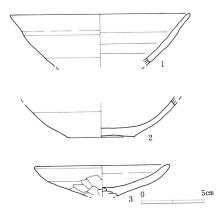
[遺構] (第16図参照)

2号住居は平安時代の竪穴住居跡であり、 第16図のとおり水田造成のため壁は既に削平 されており、柱穴及びカマドの底部のみ検出 された。カマドは北カマドであり、約1mほ どの煙道を持つ。焚口部は掘り込まれており、

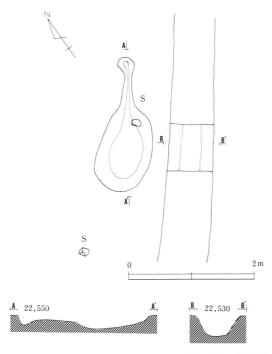




第16図 目呂木本杉遺跡第2号住居跡平・断面図



第17図 目呂木本杉遺跡出土遺物(3)



第18図 目呂木本杉遺跡カマド跡・溝跡平・断面図

円形のピット状を呈す。径は約80cmほど である。柱穴 $P_1 \sim P_4$ はいずれも検出径20 cm前後であり、深さ10cm前後の残存しかない。

〔遺物〕(第17図参照)

第17図で示した遺物はいずれもカマド 焚口部からの出土した土師器である。 1 は底部、 2 は口縁部を欠くがいずれも坏 と思われる。 2 の底部切り離しは回転糸 切りによる。 3 も底部を欠くが皿と思わ れる。

③カマド跡・溝跡

〔遺構〕(第18図参照)

今回の調査区北東端でカマド跡と溝跡 が隣接して検出されている。1・2号住 居と同様、水田造成のため削平を受けて

いるが、このカマド跡は平安時代の住居に伴うものであり、その住居を切って溝跡がつくられたと判断される。しかし、カマド跡以外に住居に伴う遺構は検出されなかった。

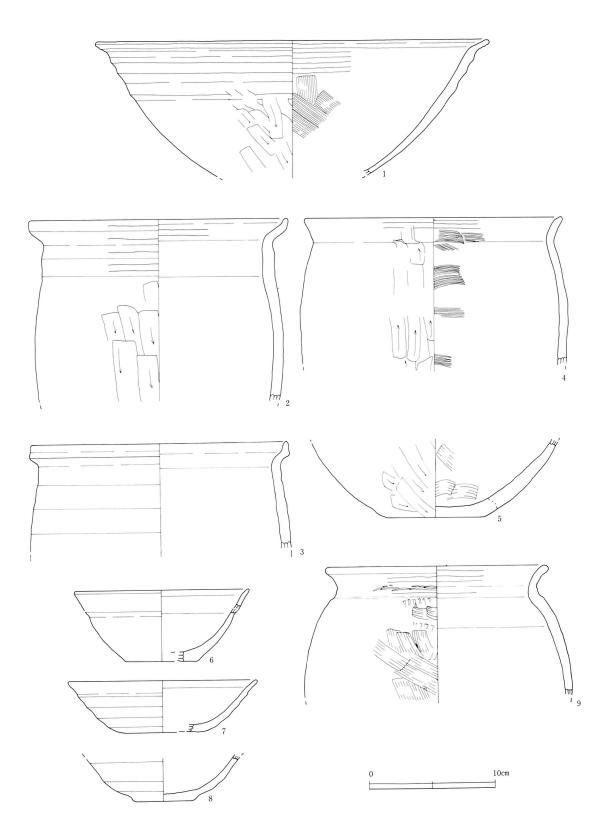
カマド跡は北東方向に約1.2mほどの煙道を持ち、煙出し部はピット状に掘り込まれている。 溝跡は北東から南西方向に走り、検出時の上巾70cm、下巾30cm、深さ28cmほどである。

〔遺物〕(第19図参照)

1 は堝に分類されるものであるが、1 号住居跡から出土した渦に比べ、器壁の傾き、口縁部の反り、口唇部のつくりに異なった様相を呈す。 $2\sim5$ はいずれも体部上・下半部のいずれかを欠く土師器甕である。2 は最大径を口縁部に持ち、体部外面底部に向かって縦方向のヘラケズリが見られる。4 は体部外面に口縁部に向かって縦方向のヘラケズリが見られ、体部内面は横ナデ調整が施されている。 $1\sim5$ 及び $6\sim8$ の土師器坏を含めいずれもカマド跡からの出土である。

9 は体部外面にハケメ調整が施され、口縁部にへらで横様状の刻みが見られる土師器甕である。

以上のことから遺構は全て平安時代のものであるが、1号住居跡については10C、2号住居跡・カマド跡は11Cの遺構と考えられる。



第19図 目呂木本杉遺跡出土遺物(4)

2. 県営ほ場整備事業「愛宕南部地区] 関連調査

(1) 観音堂沖遺跡(位置図:第20図)

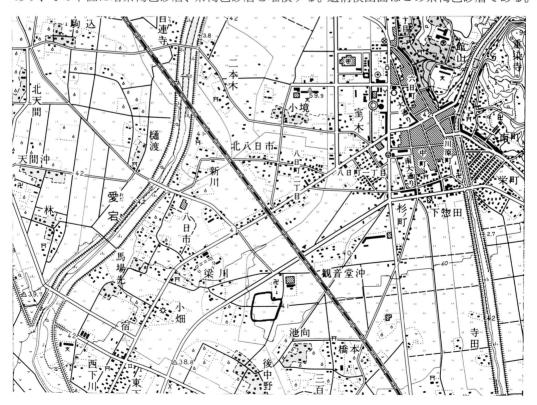
所在地:江刺市愛宕観音堂沖 調査期日:平成5年3月、7月

遺跡は、江刺市岩谷堂市街地の南西約3km、県道水沢人首線の南に位置する。遺跡の北西に接して、地名由来の観音寺がある。南東は池向遺跡と接する。現況は水田で、標高約39.5mを測るが、かっての水田整備により自然堤防状の地形は削平され、ほぼ平坦な面となっている。

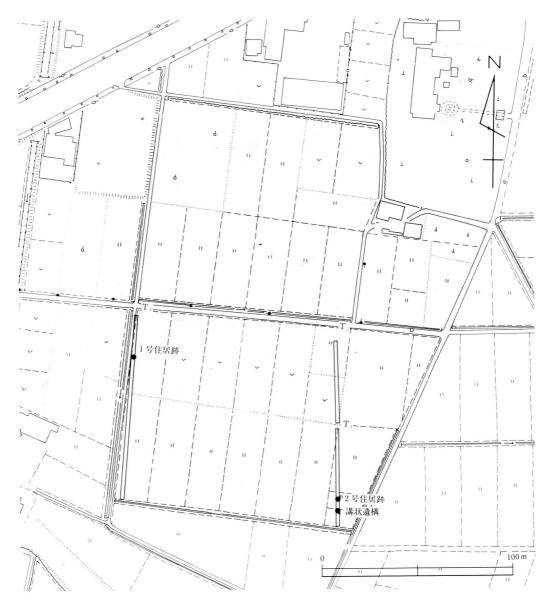
調査は、ほ場整備による道路(支線第14号)と排水路(第11号)部分のみを対象とした。試掘トレンチの断面観察によって、遺構検出面は、現地表より約40cm下位にあることが確認できたため、水田部分に関しては遺構に影響が及ばない工法をとることにより、保存を図った。なお、遺跡北半は、事業予定地外であり、調査からは除外してある。

遺跡西端に設定した T_1 において、住居跡一棟を検出し、1 号住居跡と命名、トレンチを拡張し調査した。また、東側部分に $T_2 \cdot T_3$ を設定したが、 T_3 の南側で、2 号住居跡、溝状遺構を検出し、それぞれ拡張し調査を実施した(第21図)。

これらの試掘トレンチ及び拡張部における土層は、表土の下にややグライ化した黒褐色土があり、その下位に暗茶褐色砂層、茶褐色砂層と堆積する。遺構検出面はこの茶褐色砂層である。



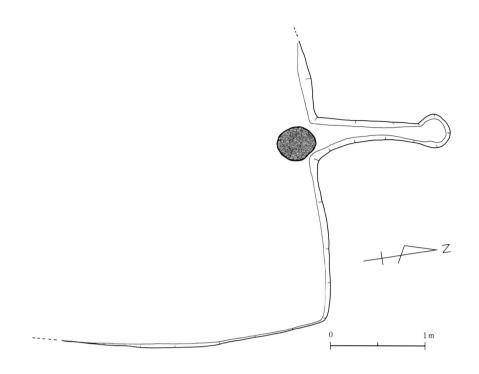
第20図



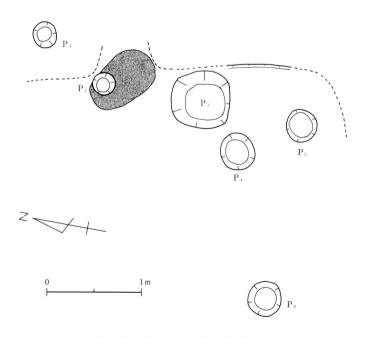
第21図 観音堂沖遺跡トレンチ配置図

住居跡は、いずれも残存状況は悪く、また埋土と地山の色別も、僅かな炭化物の有無で判断せざるを得ない状況であった。1号住居跡(第22図)は、北辺と東辺は確認できたが、全体のプランは把握できかねた。北カマドを設け、燃焼部には僅かながら焼土が残存していた。

2号住居は、東カマドと思われるが、壁は東辺の一部が確認できただけで、やはり全体プランは知り得なかった。 $P_1 \cdot P_2$ は、住居より新しい時期の性格不明のピットである。 P_3 は一辺約70cmのカマド横のピットで、第25図 1、 $4 \sim 8$ の遺物が出土している。住居に伴う柱穴は、 P_4



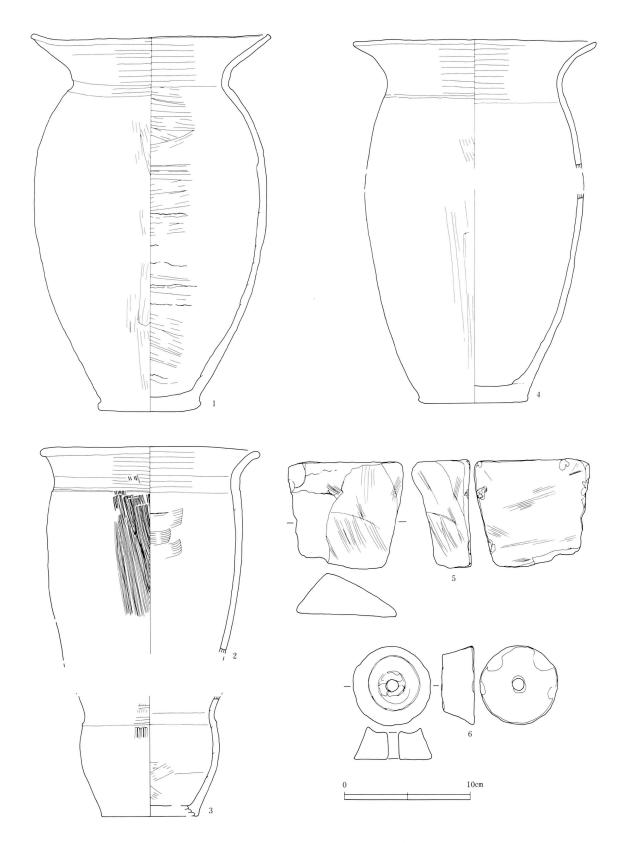
第22図 観音堂沖遺跡 | 号住居跡平面図



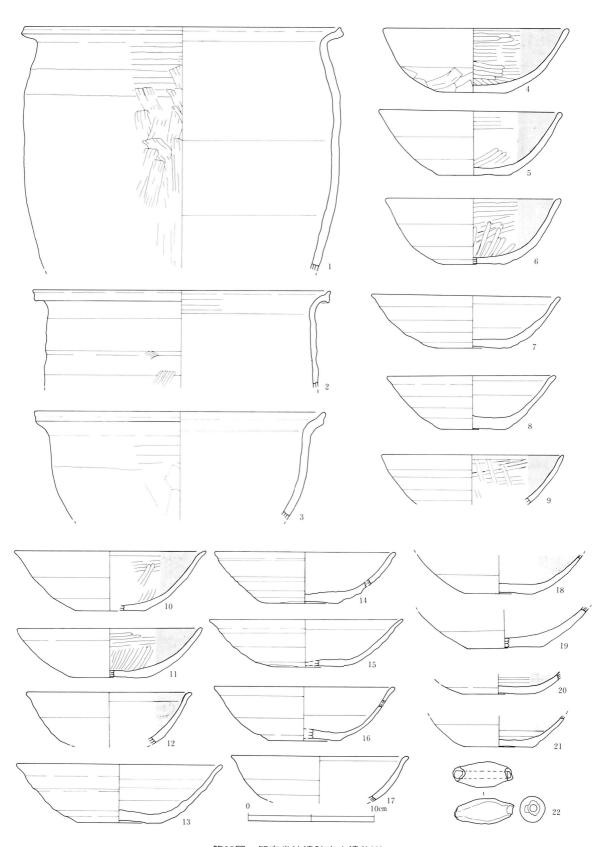
第23図 観音堂沖遺跡 2 号住居跡平面図

が最も可能性がある。Ps・Psについては、住居に伴うものか判断しかねた。 出土遺物は、1号住居からは甕、小形甕、砥石それに住居周辺で土製紡錘車を採集している(第24図)。坏形土器が欠落するため、詳細な時期は不詳だが、8世紀後半の年代を与えておく。

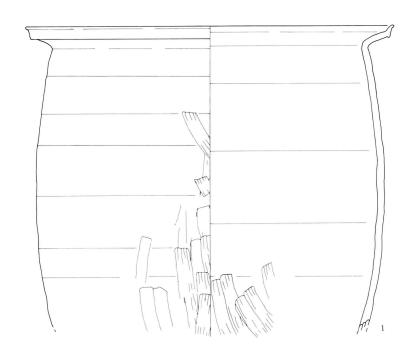
2号住居跡は、糸切り の内黒坏、赤焼土器が伴 出する(第25図)。甕は 口縁が直角に開き、ロク

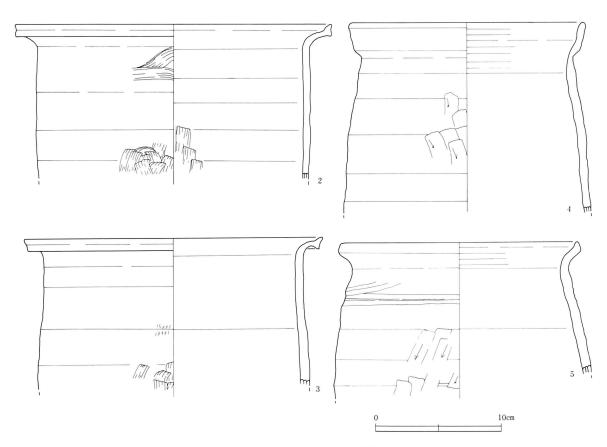


第24図 観音堂沖遺跡出土遺物(1)

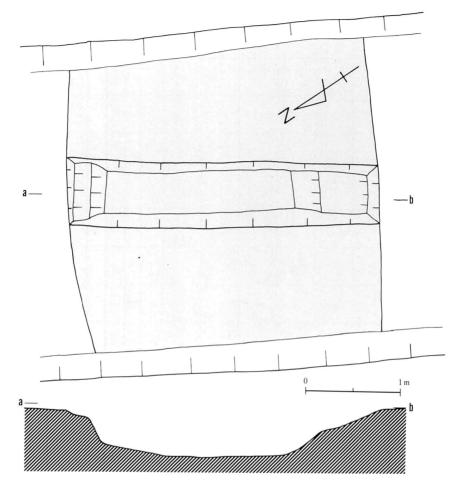


第25図 観音堂沖遺跡出土遺物(2)





第26図 観音堂沖遺跡出土遺物(3)

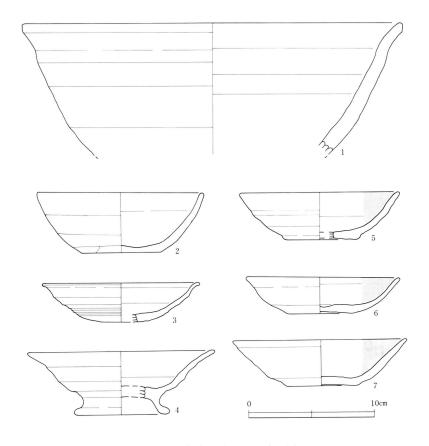


第27図 観音堂沖遺跡溝状遺構

ロ整形の後、ケズリが成される。 2 は、やや還元されて焼き上がり、青灰色を呈する。 3 は、シルト質の軟らかい胎土で、鉢状の器形となる。同様の胎土は、坏($10\cdot 17$)にもみられる。 須恵器は出土していない。年代は10世紀後半を想定したい。

 T_3 南側で検出した溝状遺構は、巾 $3.0\sim3.3$ m、深さ約50cmで、N60° Wの傾きを持つ。埋土は、ほぼ単一的な層からなるが自然堆積で、水成痕跡は確認できなかった。断面は北側に比べ南側が緩く立ち上る。水路工事部分のみの調査であるため、この溝がどのように走るのかは確認できなかったが、池向遺跡との区画の機能を持つ可能性もある。

遺物は、甕(第26図)と堝(第28図 1)、环(同 2 \sim 7)があるが、埋土出土品は第28図 4・7 で、他は周辺部からの出土である。甕はいずれも口縁が急に外反し、ロクロ調整後、ケズリ



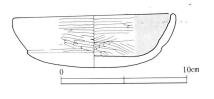
第28図 観音堂沖遺構出土遺物(4)

が施される。坏は比較的浅いものが多く、高台を持つもの(4)もある。2号住居跡と比べより新しい段階に属するのであろうが、10世紀後半~11世紀の年代観を提示しておく。

第29図の坏は、 T_2 の北部で出土したもので、内面(外面も?) 黒色処理、全体にミガキが施されている。外面に段が付き、内面にも稜がみられる。口唇はやや内側に入り込む。入念なヘラミガキから、8世紀中~後半の年代を与えておきたい。

今回の調査は、前述したように道路・水路に係る僅かな部分の調査であったが、全体として

8世紀代の資料は北側に、10世紀代は南側から出土する傾向が把握できた。自然堤防あるいは沖積部の徴高地上の遺跡でも時期により微妙な占地の変化を表わす例として捉えておく。なお、須恵器の貧弱さは、在地生産の終焉時期を示すものと評価できる。



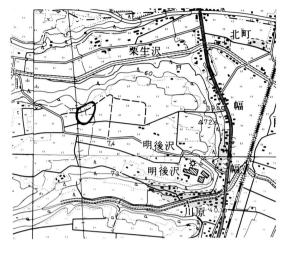
第29図 観音堂沖遺跡出土遺物

3. 農免農道整備事業 [前沢 2 期地区] 関連調査

(1) 明後沢遺跡

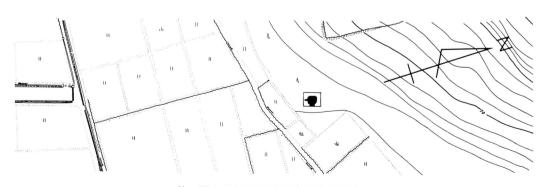
所在地:胆沢郡前沢町古城字明後沢 調査期日:平成6年2月1日~3日

本遺跡は胆沢扇状地の扇端部にあって、台地北側を松の木沢川、南側を明後沢川に開析された舌状台地上に立地し、標高75m~76mを測る。また本遺跡は、胆沢城跡で出土している瓦と同種の瓦が出土することで知られており、古代城柵跡の可能性が指摘されているが、過去の数次の調査においても、未だ遺跡の性格については不明である。昭和38年に県史跡に指定されている。



第30図

平成3年度に台地両端を南北に横断する形で一般農道を建設する計画が岩手県農政部から提出された。県史跡の範囲からは外れるものの、台地全体を遺跡の範囲として捉えていたため、試掘調査を実施することとした。平成3・4年度過去2年の試掘調査においては、計画路線内で遺構・遺物ともに検出されなかったが、今年度の工事予定区の試掘調査において、台地北側縁辺部で竪穴住居跡1棟が検出された。試掘調査結果に基づき、事業者側と保存についての協議を行ったが、過去2年の工事において既に道路は8割方完成しており路線を変更することが難しいこと、また古代布目瓦に伴う遺構ではなく竪穴住居跡1棟のみであること等を勘案し、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとした。

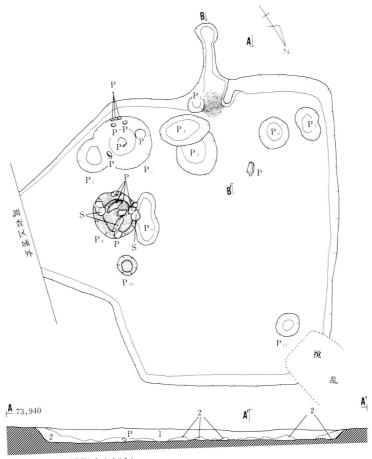


第31図 前沢町明後沢遺跡遺構配置図

〔遺構〕(第32図参照)

今回調査した遺構は 平安時代の竪穴住居跡 1棟であり、先述した とおり、台地北側縁辺 部西寄りに位置する。 検出面の標高は73.8m 前後を測る。主軸を南 北方向から約30°東に 寄る方向に持ち、基本 的には1辺5m×3.5 mの方形であるが、東 に張り出し部分を持つ。 壁高は住居南側で22cm ほど、北側で15cmを測 る。埋土の黒褐色土は 堆積に時期差があると 思われるが細分するこ A 73.940 とはできなかった。

カマドは住居南側壁 のほぼ中央部につくら れており、南東方向に 約1mほど伸びる煙道 を持つ。煙出しは径35 cmほどのピット状に掘 り込まれており、検出



1.黒褐色土 土器片徴量混じる、しまりなし 2.暗褐色土 地山ブロック少量混じる、しまりなし



第32図 明後沢遺跡竪穴住居跡平·断面図

面からの深さ20cm、煙道底面からの深さ12cmほどを測る。

ピットは大小11基検出された。カマド付近で検出され P_1 ・ P_2 及び P_4 ・ P_5 は貯蔵穴と思われる。 P_4 ・ P_5 は切り合っており、新しいピット P_4 は長軸80cm、短軸50cmの楕円形を呈し、深さ28cmを測る。 P_5 も楕円形を呈し、推定で長軸80cm、短軸65cmであり、深さ25cmである。いずれも埋土には多量の焼土・木炭片を含むが、土器は細片しか見られない。 P_2 は径85cmほどの円形を呈すピットで深さ35cmを測る。多量の土器が出土しており、これが住居最終段階の貯蔵穴と

考えられる。

住居の全体プランは不明であるが、この住居に伴う柱穴としては P_6 ・ P_{11} が考えられる。 P_6 は径45cm、深さ22.8cmを測る。 P_{11} は径38cm、深さ15.6cmを測る。他に柱穴の可能性があるものとしては P_{10} が考えられる。大量の焼土で埋まるなど埋土の様相は異にするが、径32cm、深さ15cmを測るピットである。

 $P_s \cdot P_s$ はこの住居の性格を考える上で重要なピットと考えられる。 P_s は径70cm前後、深さ 10cmほどのピットであるが、埋土はほとんど焼土であり口縁部周辺に石を配した痕跡を残し土器が集中する。この様相から土器焼成ピットの可能性が高い。 P_s はそれに伴うピットであろう。以上のことから、この住居跡は土器製作工房としての機能を持つ住居と考えられる。

〔遺物〕(第33図参照)

この住居内からは大量の土師器が出土している。特にも P_2 ・ P_8 に集中しているが、図化できたものについて第33図に掲げた。以下その概略について述べてみたい。

1 は口径20cm、底径11.2cm、器高28.1cmを測り、最大径を胴部に持つ甕である。体部外面下半にケズリが見られる。口縁部は外反するが、口唇部がやや内湾する様相を見せる。胎土は粗く、径 $1\sim 2$ mmの小石が混じる。 P_2 内からの出土である。

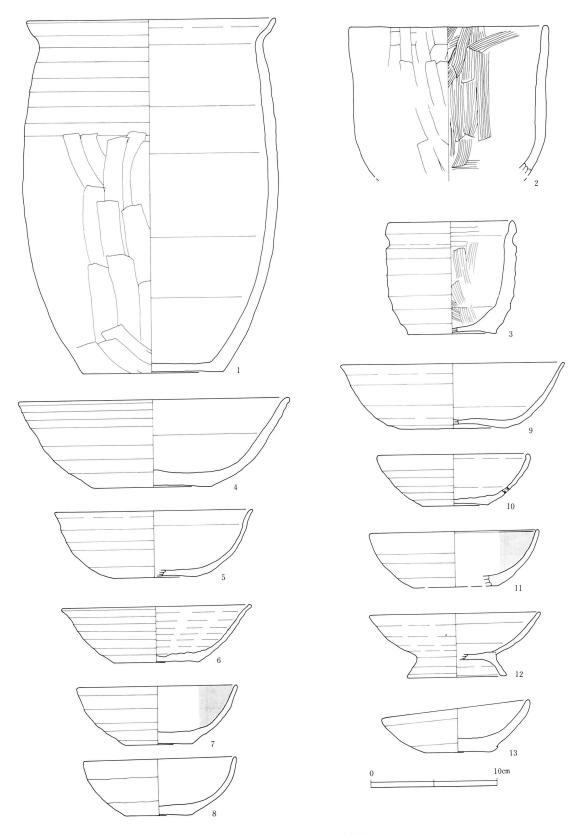
2 はP₂出土の小型壺である。推定口径は16cmほどであり、体部外面はケズリ、内面はハケ目調整が見られる。口縁部は体部から僅かに外傾気味に立ち上がる。 3 も小型壺であり、住居床面からの出土である。口径10.3cm、底径 7 cm、器高 9 cmの小さいものである。体部内面にハケ目調整が見られる。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。

 $4\sim13$ は土師器坏である。4はロクロ成形の大型坏であり、口径21.7cm、底径9.5cm、器高 7 cmを測る。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。 P_2 から出土である。 $5\sim8$ も P_2 から出土した土師器坏である。いずれも底部切り離しは回転糸切りによる。7 のみが内面に 黒色処理が施されている。

9・10は住居埋土中から出土した土師器坏である。9は口径17.8cm、底径8.8cm、器高5.2cmを測るやや大型の坏である。9・10いずれも回転糸切りによる底部切り離しである。

 $11\sim13$ は P_s から出土した土師器坏である。11は推定で口径13.7cm、底径6.8cm、器高4.4cmの坏で内面黒色処理が施されている。12は高台付坏であり、口径13.7cm、器高5.1cmを測る。13は完形の坏で口径12cm、底径5.7cm、器高3.5cmを測る小形のものである。胎土は小石混じりで粗く、焼成も雑である。底部切り離しは回転糸切りにより、無調整である。

以上遺物の概略について述べたが、概ね11 C代の遺物と考えられる。



第33図 明後沢遺跡出土遺物

4. 広域農道整備事業 [上野地区] 関連調査

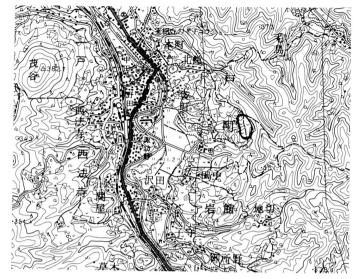
(1) **北館 G遺跡** (位置図:第34図) 所在地:一戸町一戸字北館

調査期日:平成6年1月20

~23日

遺跡は国道 4 号一戸バイパスの東、開析された高位段丘と丘陵との接触部、崖錐起源の丘陵上に位置する。標高は約230mを計る。

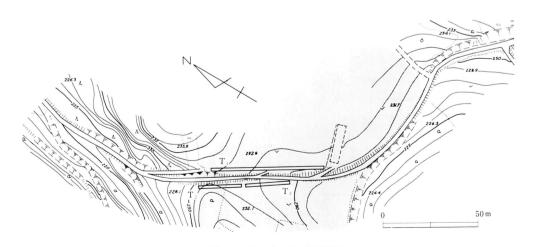
遺跡の主体は、調査区東側 の丘陵先端部から南斜面にあ ると思われたが、試掘の結果 遺物包含層が確認できたので



第34図

道路拡幅部分について調査を実施した。なお、南東に隣接する上野 I 遺跡に関しても試掘調査を実施したが、畑地造成等によって八戸火山灰層まで削平されており、遺構・遺物は確認できなかった。

調査は、事業予定地に沿い、現道の東側に T_1 、西側に T_2 ・ T_3 を設定し実施した。 T_1 の北端、 T_2 の北部は、基盤のシルト岩が表土直下に露出し、遺物・遺構は確認できなかった。また T_1 の南側は、一端深くなった地山の火山灰層が再び上昇し、小規模な鞍部を呈することが現道の断面で確認された。それより南東の畑地については、用地収得がなされておらず、後日改めて調



第35図 北館 G 遺跡遺構配置図

査することとした。T₃の南部分は、深い沢状の地形に黒色土等が堆積していたが、遺物の出土範囲は、T₃中央部付近を南限としており遺跡の範囲外と判断した。

第36図に T_1 トレンチ中央部での土層断面図を掲げた。第1層から 3 層までの約50cmは、近年の畑地造成による再堆積土であり、僅か に破砕された土器片が出土するのみであった。

第4層は、旧表土で、一部固く踏み締められた旧道跡も確認できた。第5層は暗褐色土層で、炭化物が混じり、遺物が下位から出土する。以下、基本的な土層説明を記す。



 $230\,\mathrm{m}$

第6層 白色火山灰層。層厚3~8cm。トレンチ内に部分的に 堆積する。純粋な層というより7層のブロックを混じ えるところもあり、再堆積、流れ込みの可能性がある。

第7層 黒褐色土。層厚25~30cm。炭化物を含む遺物包含層。下位になるにつれ、浮石粒 を多く含む。

第8層 暗褐色土。中掫浮石を多く含む。無遺物層。

第9層 褐色土。中掫浮石や南部浮石と思われる橙色浮石を含む。無遺物層。

第10層 黒褐色土。層厚約40cm。南部浮石を含む層。無遺物層。

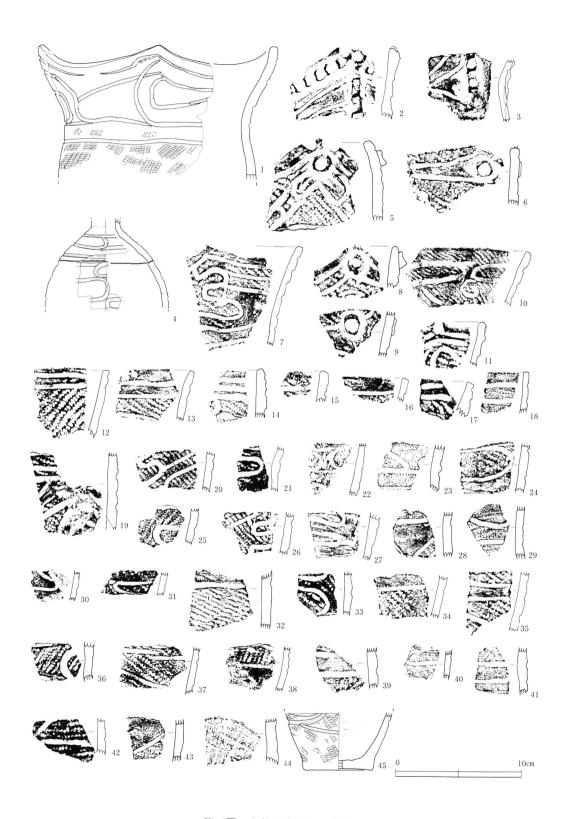
第11層 明褐色土。八戸火山灰層と思われる。無遺物層。

調査は、第8層まではトレンチ全体を掘り下げたが、第7層の中位で遺物の出土は終わり、 以下の層からは確認できなかった。また、いずれのトレンチでも遺構は検出できなかった。

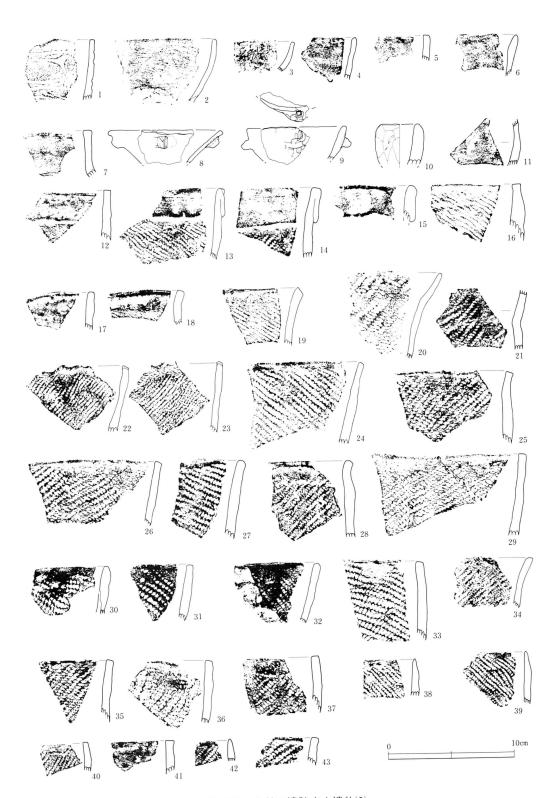
第37~42図に出土遺物を掲げた。層位的には、第41図の弥生土器群は、T₁トレンチ中央部付近を中心にした第5層下部から第7層最上位にかけて出土している。一方、第37~40図の縄文土器群は、より広い範囲の第7層上位を中心に出土した。漸位的ながら、一応の層位関係は認められた。ただし、第6層とした白色火山灰層は、これまでの知見に従うなら平安時代の降下とされる十和田a火山灰と推定される。弥生土器の一部はこの6層の上位や6層中から出土したものもあった。よって、再堆積土の可能性を指摘しておく。

縄文土器群は、大半が後期前葉に属するもので、刻目を持つ隆線の貼付(第37図 $2 \cdot 3$)、ボタン状貼付文(同 $5 \sim 9$)、S字状文等の特徴を有する。また、破片資料であるが、切断蓋付壺(同 4)も、この時期特有の遺物であり、焼成前の切断面は、表面から連続突き刺しによって身部と蓋部が切り離されたことがわかる。

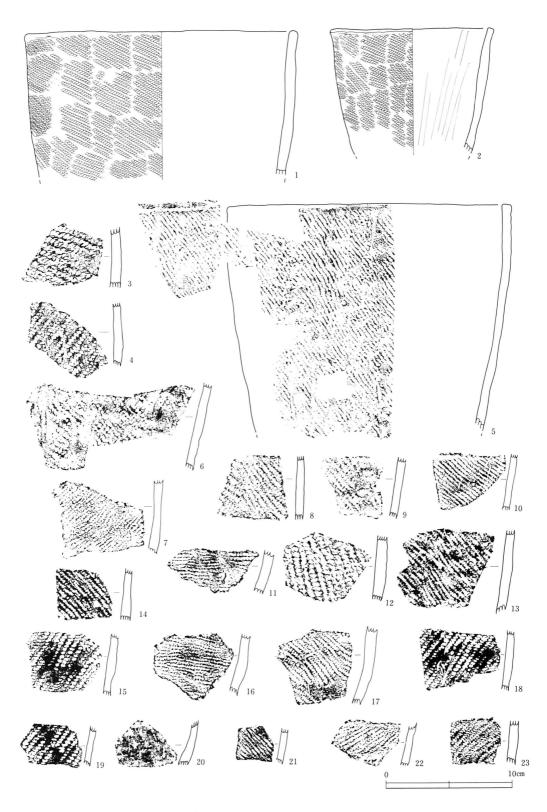
僅かであるが、後期終末〜晩期初頭の資料もある。第38図1は三叉文を持つ深鉢の口縁。入組文に規制された三叉文であり、後期最終末と捉えたい。 $2\sim7$ は無文土器、2は晩期初頭の



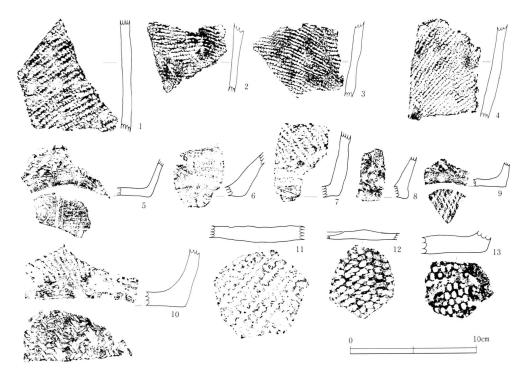
第37図 北館 G 遺跡出土遺物(I)



第38図 北館 G 遺跡出土遺物(2)



第39図 北館 G 遺跡出土遺物(3)



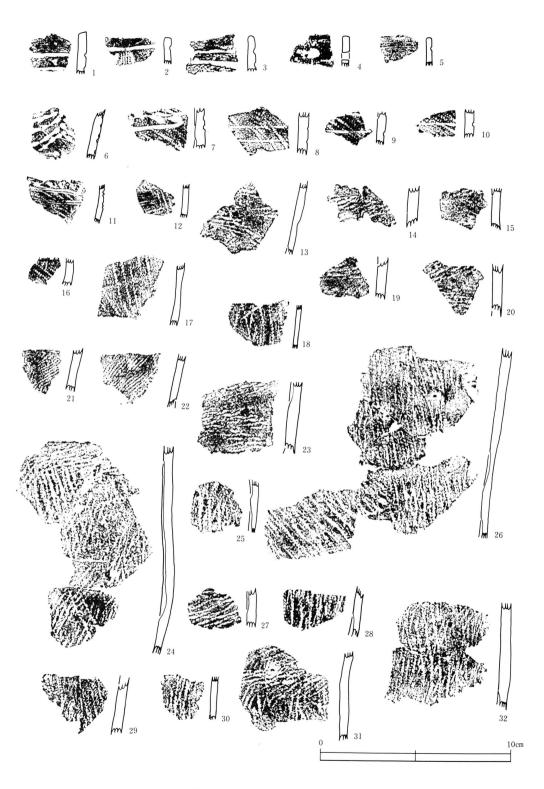
第40図 北館 G 遺跡出土遺物(4)

椀形となろうか。同図11は、やはり晩期初頭の壺形土器の可能性がある。

粗製土器では、折り返し口縁を持つもの(同 $12\sim15$)等のほか、頸部がやや広がるもの(同 $19\sim21$)、口唇に刻みを施すもの(同 $22\cdot23$)がある。 $20\cdot21$ と第40図 5 の底部は同一個体であり、底部の山形状沈線などから弥生土器の可能性も棄てきれない。

第41図に示した弥生土器は、いずれも小破片であるため、縮尺を 2 分の 1 にした。 $1\sim5$ は口縁部資料、波状口縁または突起を持つもの($1\cdot3$)もある。 2 は口縁に平行する沈線の下に帯縄文を配する。これらは焼成・胎土から同一個体と思われる。 4 は焼成不良で、焼成後に穿孔される。 6 は斜めからの連続押し引き刺突文が付く。 7 は沈線+刺突、 $8\sim11$ は平行沈線が横走する。いずれも沈線施文後に縄文が施される特徴を持つ。以下、胴部の破片では、縄文($21\cdot22$)や原体末端を意識的に施文するもの($13\cdot24\cdot31$)、不整撚糸文等がみられる。器内面のナデ調整も特徴的である。破片数は多いが、個体数としては $3\sim4$ 個にとどまろう。

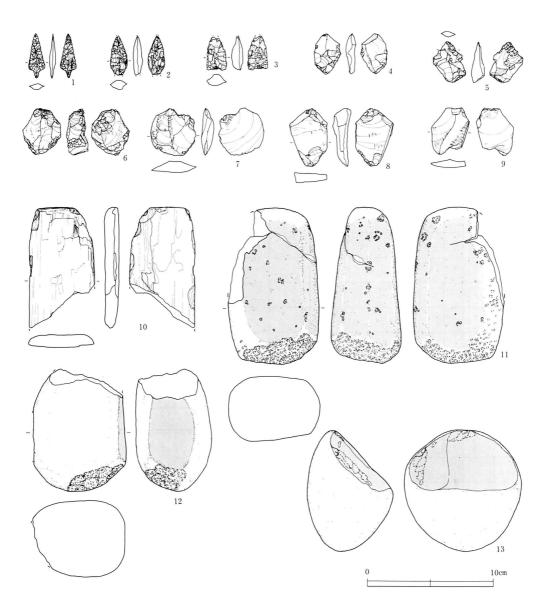
いずれも器形が窮えるほどの資料はないが、器厚の割には、比較的大形の甕形土器になろう。 天王山式あるいは赤穴式と呼ばれる弥生後期の一群に基本的には包括されるが、それらに特徴 的な交互刺突文を欠く点、沈線で区画された帯縄文の存在等から、より新しい段階に位置付け ることもできよう。



第41図 北館 G 遺跡出土遺物(5)

石器は比較的貧弱であった。第42図に示した資料で、11は6層上面からの出土、他は7層からの出土であり、縄文時代に含まれる。剝片石器の石材は、硅質頁岩が多用される。4・5・8のような両極打法によると思われる不整形な剝片も目に付く。10は、扁平な硅化木化石を素材とし、一部側縁に加撃し、幅を矯正している。利器となるか否かは不詳である。

安山岩や砂岩の円礫を利用した擦り石、叩き石(11~13)は、熱を受け、破損している例が 少なからずみられた。



第42図 北館 G 遺跡出土遺物(6)

5. 早池峯ダム建設関連調査

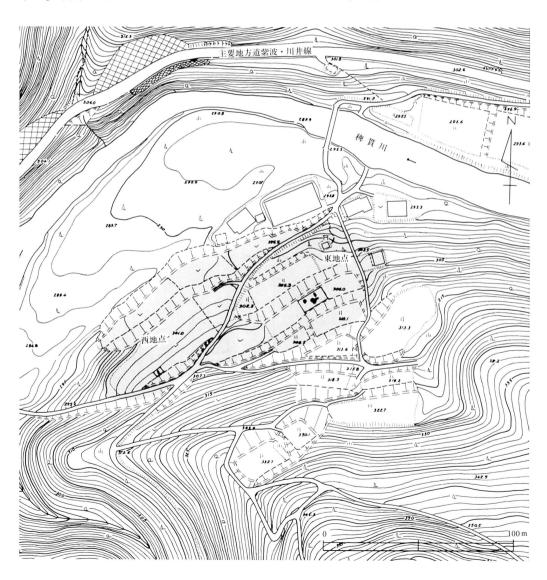
(1) **人中遺跡**(位置図:第 43図)

所在地:大迫町内川目人中 調査期日:平成5年9月10 ~13日

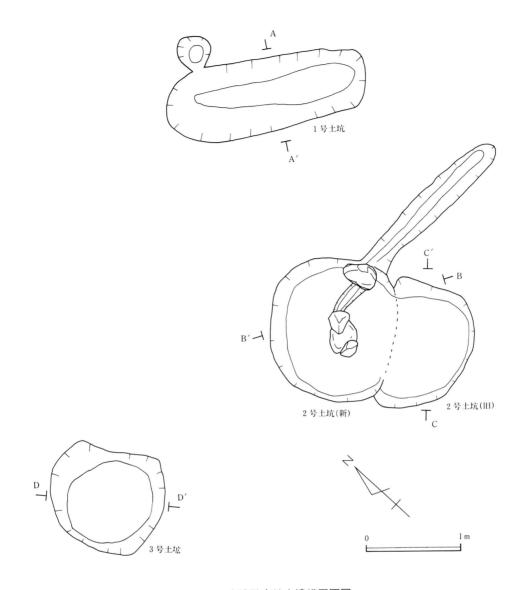
遺跡は、稗貫川の南岸、標 高約300mの丘陵斜面に位置 する。平成3年度に実施した



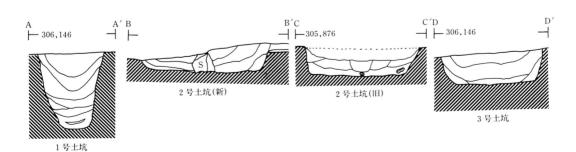
第43図



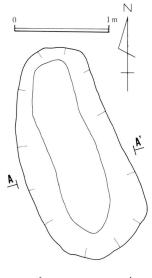
第44図 人中遺跡遺構配置図



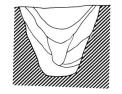
第47図 人中遺跡東地点遺構平面図



第48図 人中遺跡東地点土坑断面図



302,799 **A**



第45図 平·断面図 人中遺跡西土坑

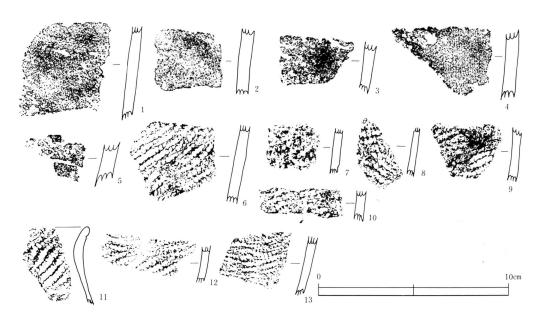
試掘調査で確認していた東西二地点について調査を実施した。

東地点では、1~3号土坑、それに陥し穴状の遺構一基を検出した。1号土坑は長軸220cm、短軸75cmで、遺物は出土していない。2号土坑は新・旧二基から構成され、旧土坑は径約130cm、北東部を新土坑によって切られる。床面はほぼ平坦となる。新土坑は陥し穴も切るが、重複部分には亜角礫が置かれ、いわば閉塞したような形となる。また中央部にも礫がおかれる。陥し穴の西端が丁度この部分となる。床面は平坦で、埋土は自然堆積を示す(第48図)。

3号土坑は、径約120cm、平面形はやや不整形な円形となる。 床面はやはり平坦で、埋土も自然堆積を示す。

遺物は、2 号(新)から第46図 $1 \sim 10$ が、3 号土坑から $11 \sim 13$ が出土している。粗製土器であるが、下膨れの器形(11)から縄文中期中葉と推定できる。

西地点では、長軸220cm、幅110cm程の土坑一基を検出している。埋土は自然堆積、深さは約70cmであった。やや幅広ながら、東地点1号土坑と同様に陥し穴と思われる。遺物は今回の調査では出土しなかったが、試掘調査の際、近接した地点で、縄文中期(大木8b式)の土器を採集している。



第46図 人中遺跡出土遺物

II 試掘調査

1. 県営ほ場整備事業 [宮手・稲藤地区] 関連調査

(1) 上平沢新田遺跡

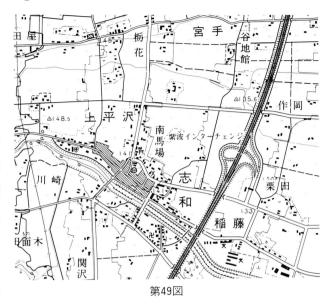
所在地:紫波郡紫波町上平沢新田

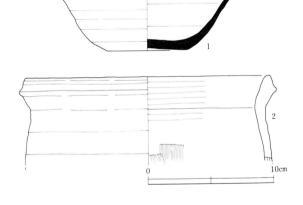
調査期日:平成5年12月6日

本遺跡は上平沢川左岸の低位段丘縁辺部に立地し、標高は135m前後を測る。東北自動車道が本遺跡の西側を南北に縦断する形で走り、昭和50年に発掘調査が実施されている。調査の結果、平安時代の板材使用の竪穴住居跡・掘立柱建物跡等の遺構に伴い、墨・墨書土器・「萬年通宝」などの遺物が出土しており、普通の集落と違い政治的性格の集落の可能性が指摘されている。

平成6年度以降、東北自動車道の東側の 水田で県営ほ場整備事業が計画されている ため、遺構の有無・検出面までの深さ等、 実施設計のための事前資料を得る目的で試 掘調査を実施した。

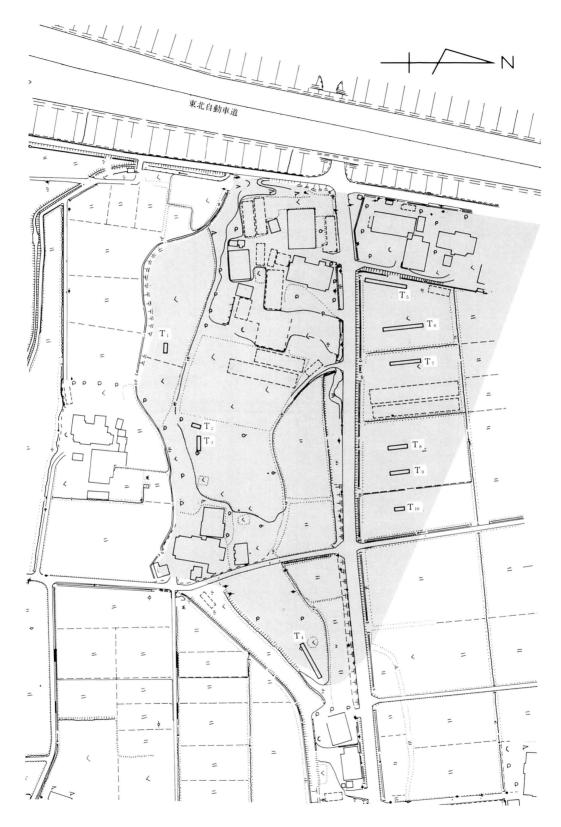
第51図に示したとおり、本遺跡内で工事が予定される区域について、 $T_1 \sim T_{10}$ のトレンチを設定し調査を実施した。調査の結果、 $T_2 \cdot T_3$ 及び $T_5 \sim T_{10}$ では遺構・遺物ともに検出されなかったが、 $T_1 \cdot T_4$ で遺物が出土している。





第50図 上平沢新田遺跡出土遺物

 T_1 で地表からの深さ60cm前後の木炭片の混じる暗褐色土中から、須恵器坏(第50図 1)が出土している。口径13.5cm、底径6.4cm、器高4.5cmを測るもので、底部切り離しは回転糸切りによる。また、 T_4 東半部で地表から20cm前後の暗褐色土中から、ロクロ成形土師器甕の口縁部(第50図 2)が出土している。口径は推定で19.6cmほどのもので、体部内面に一部ハケ目調整の痕跡が見られる。 $T_1 \cdot T_4$ ではいずれも遺構までの検出は行わなかったが、平安時代の遺構の存在が予想されるため、実施計画段階で除外あるいは設計変更することとした。



第51図 上平沢新田遺跡トレンチ配置図

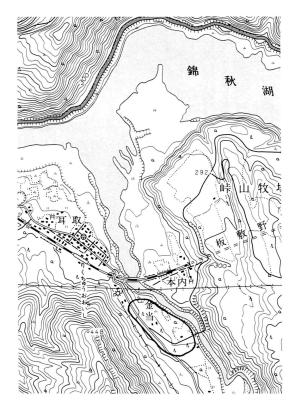
2. 東北横断自動車道秋田線建設関連調査

(1) 本内 II 遺跡

本遺跡は、和賀川の支流南本内川の左岸の段丘上に位置する。この段丘の山際には 崖錐性の礫の堆積が随所にみられる。遺跡 中央には南北に細い沢が流れる。今回の調 査区域は、この沢の西側にあたる。東側部 分は、平成5年度に発掘調査を実施してい る。

その調査対象区域に、 $T_1 \sim T_8 O \land \nu \nu \nu + E$ を設定した。いずれのトレンチも表土直下に暗褐色土が薄く堆積する。ただし T_7 は崖錐起源の礫層が、 T_4 には暗褐色土の上位にシルト質の黒褐色土がみられた。また T_4 西側の高まりは、土砂の捨て場である。

遺構は、大きな礫が散在するため明確に 把握はできかねたが、T₆中央部で炭化物の 集中する焼土等を検出している。



第52図

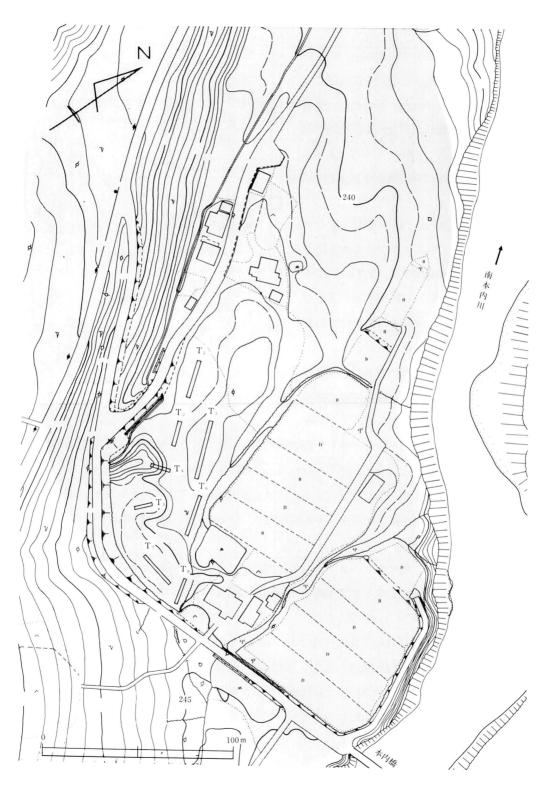
遺物は、 $T_4 \cdot T_7 \cdot T_8$ を除くトレンチの暗褐色土から出土した。第54図1は、縄文後期中葉深鉢の口縁、表裏面共入念なミガキがなされる。2は晩期中葉頃に位置付けられようか。3・4は、やや磨耗し、胎土の砂粒が露出する。壺形土器の肩部(3)と胴下半(4)に相当する破片。4には縄文が施された可能性もあるが判然としない。5は、晩期初頭に比定できようか、深鉢の口縁部付近の破片。

6以下は粗製深鉢の破片、7~8の縄文は比較的細く、斜め回転施文もみられる。10は粗い 撚糸文を付す。一部回転方向を変え重複させ網目状の効果を出す。縄文後期前半に位置付けら れようか。

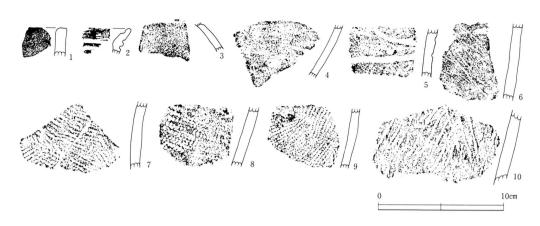
本遺跡は標高240~245mの比較的平坦な面に位置するが、火山灰土の堆積は薄く、表土から巨礫が露出し、そのまま段丘礫層へ達すると思われた。従って、旧石器を包含する土層の堆積は弱いと考えたため、縄文土器が出土した層準で確認調査を中止している。

大まかな傾向ながら、縄文土器については、晩期を主とする資料が調査区北寄りに、後期は 中央部に分布することを指摘できる。

以上の調査結果から、本遺跡については、平成6年度に発掘調査を実施することとした。



第53図 本内 II 遺跡トレンチ配置図



第54図 湯田町本内Ⅱ遺跡出土遺物

3. 町道種市漁港線道路改良工事関連調査

(1) ゴッソー遺跡(位置図:第55図)

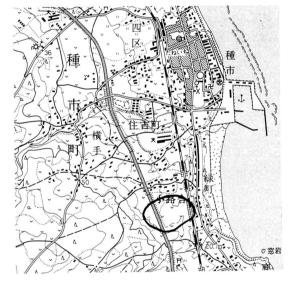
所在地:種市町第18地割64

調査期日:平成5年3月15~16日

本遺跡は種市町役場の南東約1km、国道 45号とJR八戸線の間の海岸段丘上に位置 する。標高は20~23m、東端でやや高さを 増すが、基本的には東向きの緩斜面である。

遺跡の北側は沢によって開析され、南側は畑地造成により改変されている。遺跡自体は、国道の西側へのび、主体はむしろそちらにあると思われる。

事業予定地に沿い、 $T_1 \sim T_6 O$ トレンチを 設定し、調査した。国道に近い $T_1 \cdot T_2$ では、

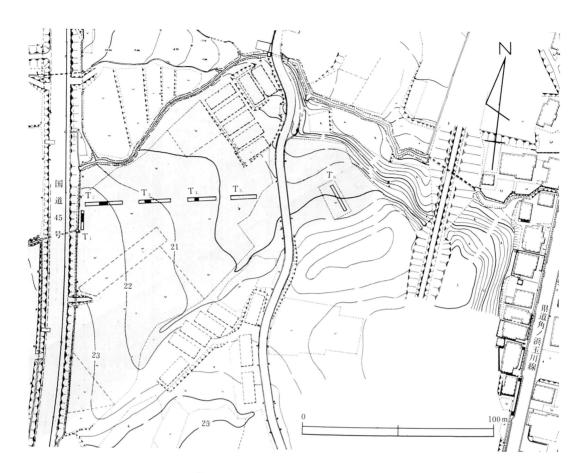


第55図

表土の下に、黒色土・黒褐色土が厚く堆積する。その下位には南部浮石層を混じえる黄褐色砂質粘土層がみられ、深さは $60\sim70$ cmに達する。 T_3 以東は、この黄褐色砂質粘土層が次第に上昇し、 T_5 付近では表土直下までとなり、南部浮石が表土に露出するほど削平されている。

遺物は、主に $T_1 \sim T_4$ までの調査区西側から出土している。第57図1は、太目の縄文を回転施文するが、その直前段の末端も表出される。胎土には多量の繊維を含む。2も胎土に繊維を含んだ底部付近の破片。おそらく丸底になると思われる。

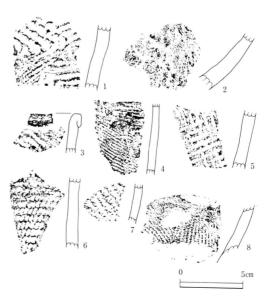
3 は折り返し口縁をもつ破片、 $4\sim8$ は斜縄文を施した土器片である。



第56図 ゴッソー遺跡トレンチ配置図

1・2は、縄文前期前半に位置付けられよう。また、図示はしなかったが、丁寧な縦位のケズリ・ミガキを持つ小破片が1点出土している。層位は不明だが、早期中葉貝殻文系土器の調整に類似する。

 $3 \sim 8$ は、縄文中・後期に比定できよう。 なお、 T_6 を設置した畑において、縄文後期の 小破片を1 点採集している。 T_6 からは遺物・ 遺構等は確認できなかったが、遺跡範囲とし て捉えることとし、この事業区については、 平成6 年度に発掘調査を実施することとした。



第57図 種市町ゴッソー遺跡出土遺物

4. ふるさと農道整備事業 [牧田・福伏地区] 関連調査

(1) 牧田貝塚

(位置図:第58図)

所在地:陸前高田市

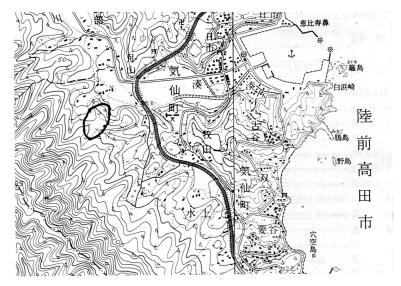
気仙町字牧田

調査期日:平成5年

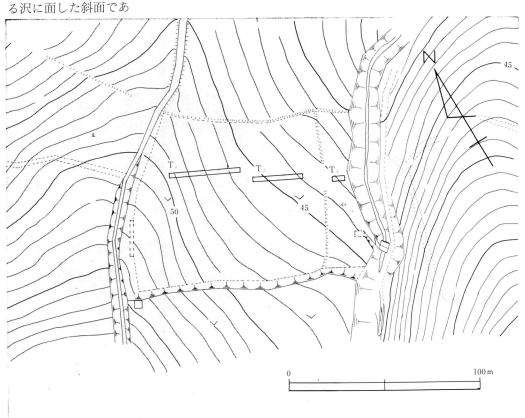
9月13日

本遺跡は、広田湾の 西側に位置し、縄文前 中期の稀少な貝塚とし て知られていた。

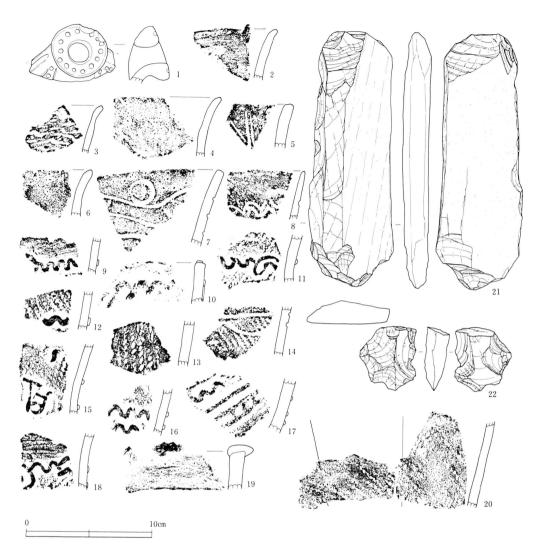
今回の事業地は、この貝塚主体部から西に 外れた地点で、北流す



第58図



第59図 牧田貝塚トレンチ配置図



第60図 牧田貝塚出土遺物

る(第59図)。事業地に沿い設定したトレンチのうち、 T_1 では畑の耕作土の下に基盤である粘板岩体が露出する。ただし、 T_1 東端には炭化物まじりの茶褐色粘土質土が堆積し、そのなかに土器片が含まれるなど、遺構と思われた。 T_2 は、表土下に暗褐色土(約50cm)と黄褐色粘土質土(約30cm)があり、沢に向うにつれ厚くなり、遺物も出土する。これらの下には土垃状の遺構の存在も予想される。 T_3 は、山部から流れ出す沢により侵食され、崖錘性の礫層となり西端部に僅かに遺物包含層が残存する。

遺物 (第60) は、縄文前期の大木 $3 \cdot 4$ 式を主とする。ただし貝層や動物遺骸は確認できなかった。本遺跡については平成 6 年度に発掘調査を実施することとした。

5. 農免農道整備事業 [浜岩泉地区] 関連調査

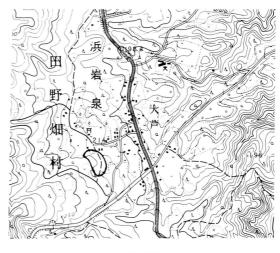
(1) 浜岩泉 I 遺跡 (位置図:第61図)

所在地:田野畑村浜岩泉

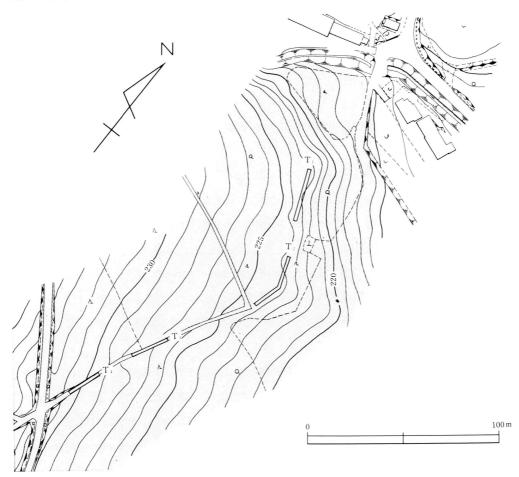
調査期日:平成5年10月4·5日

本遺跡は、国道45号と県道岩泉大戸線との交差点の北西部に位置し、標高約230mの海岸段丘上に所在する。遺跡北側は小さな沢に向かう斜面となり、その沢を挟み、縄文時代晩期の浜岩泉II遺跡と対峙する。

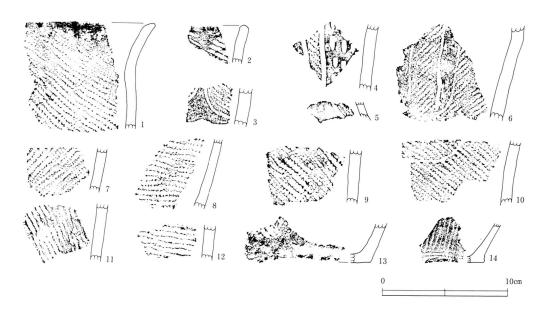
事業地区は、かって林道として利用されてきており、その東側は牧草地、西側は山



第61図



第62図 浜岩泉 I 遺跡トレンチ配置図



第63図 田野畑村浜岩泉 I 遺跡出土遺物

林となる。東側部分の地形はかなり改変されたものと思われる。

調査は事業予定地に沿い、 $T_1 \sim T_4$ のトレンチを設定し実施した。基本的層位は、表土の下に暗茶褐色土(2 層)、黒褐色砂質土(3 層)、黄褐色砂質粘土(4 層)、黄褐色粘土(5 層)となる。

 T_1 中央部で縄文中期の土器片がまとまって出土している。 T_2 北端部 4 層上面で、角礫を伴う焼土を検出している。全体のプランは把握できなかったが、縄文時代中期の竪穴住居跡の可能性が高い。 T_1 と T_2 の間には、3 層やや厚く堆積し、小規模ながら沢状の地形であったことがうかがえた。 T_3 ・ T_4 ともに遺物は出土するが、かっての林道工事により 5 層まで削平されている部分も少なくない。ただし、 T_4 南端では、直径約50cmの土址が検出され、土器もまとまって出土した。同様の地形は南に若干のびて、斜面となるが、トレンチを設定し確認したものの遺物・遺構は検出できなかったため、この部分は除外し、 T_1 ~ T_4 に至る範囲について、平成 6 年度に発掘調査を実施することとした。

出土遺物のうち、 T_4 の土地に伴出したものは現地に残してきた。第63図 $1\sim10$ は、 T_1 中央部から出土したもの。大木 9 式に相当する。 $11\cdot12$ は、 T_2 中央部付近の出土。胎土に白色砂粒と繊維を僅かに含む。縄文時代前期前半に位置付けられようか。14は、弥生時代後期の底部付近の破片。底部は入念にミガキがあり、あまりスレはみられない。胴下端には一段左撚りの縄を二段に押圧する。体部には条間のあいた撚糸文が施される。器内面は横位のナデがみられ、黒色と茶褐色の付着物がみられる。

6. 広域農道整備事業 [軽米・九戸地区] 関連調査

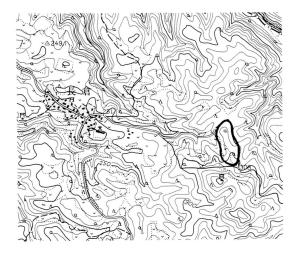
(1) 長倉 [遺跡

所在地:九戸郡軽米町大字長倉字一本木

調査期日:平成5年9月30日

本遺跡は、東西を沢により開析を受けた 丘陵頂部から中腹部の緩斜面上に立地し、 標高290m~310mを測る。

軽米町では、昭和50年代半ばに大規模畑 作ほ場整備事業が実施されており、それに 伴い長倉地区でも発掘調査が実施されてい る。今回の調査区は、昭和55年に「長倉遺 跡」として発掘調査された地点から、沢を



第64図

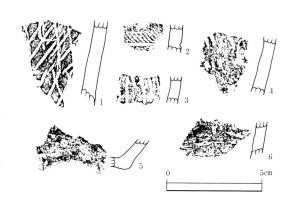


第65図 長倉 I 遺跡トレンチ配置図

挟んで東へ約100mほど離れた地点で標高で 約20mほど高い。昭和55年の調査によれば、 量は少ないが縄文前〜後期の土器片が出土 し、土坑が2基検出されている。

今回の試掘調査は、広域農道の計画路線 が本遺跡北端を東西に横断するため実施し たものである。予定路線内は立木が未伐採 であったため、立木を避けて $T_1 \cdot T_2$ のトレ ンチを設定した。

試掘調査の結果、いずれのトレンチにお



第66図 軽米町長倉 I 遺跡出土遺物

いても、地表から約20cmの表土直下の黒褐色土中から縄文時代後期初頭の土器片(第66図)が数点出土している。重機による調査であるため、さらに掘り下げての遺構検出は行わなかったが、縄文時代の遺構の存在が十分予想されるため、事業者側の同意を得て、平成6年度に記録保存のため発掘調査を実施することとした。広域農道建設のため本遺跡に係る発掘調査予定面積は約2.000㎡である。

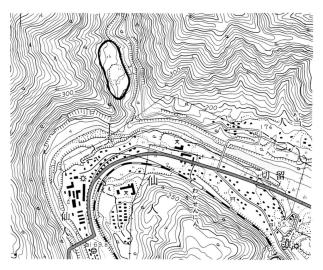
7. 北本内ダム建設関連調査

(1) 本内遺跡(位置図:第67図)

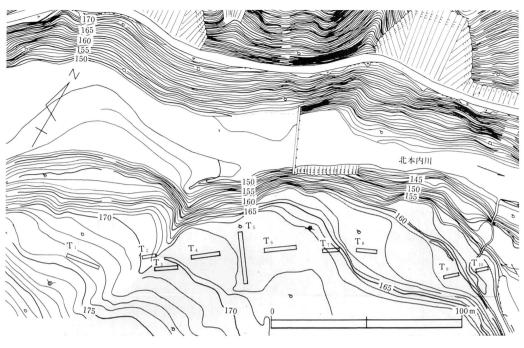
所在地:北上市和賀町和賀仙人 調査期日:平成5年10月27~29日

本遺跡は、北上市の西方、和賀川と北本内川との合流点の北西に位置する。遺跡の東部を流れる北本内川は、深い峡谷を刻むが、本遺跡周辺では、3~4段の小規模な段丘地形を形成する。遺跡はこのうち高位の2段、標高は170m程のほぼ平坦な面に広がるものと推定できる。

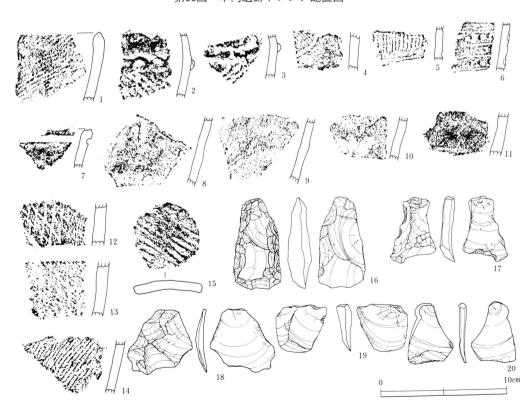
遺跡南東部には、かって民家が複



第67図



第68図 本内遺跡トレンチ配置図



第69図 北上市本内遺跡出土遺物

数存在し、いくぶん地形の改変が行われている。また、上位の平坦部には、水田や畑地が営まれていたが、現在は荒れ地と化し、背後の山地から流れ出す沢が複雑に交わり、一部は池状の 湛水ともなっている。

今回の調査は、北本内ダム建設に伴う工事用道路の建設に係るものである。その事業予定地に沿い、 $T_1 \sim T_{10}$ のトレンチを設定し、人力により調査を行った。 $T_1 \cdot T_2$ は、表土直下に崖錘起源の礫層が発達し、遺構・遺物共に確認できなかった。 T_3 は、小さな沢に張り出した部分で、表土直下に黒褐色土が比較的厚く堆積する。ここからは縄文晩期を主とする土器片が出土した。 T_4 は、黒褐色土の発達は弱いが、亜角礫を立てた遺構を検出した。周辺から遺物が出土しなかったため性格・年代等は不詳である。 T_5 では、川側部分で焼土遺構を検出した。土器は散布するものの、焼土には一部還元した色合いをもつところもあり、年代は特定できなかった。

 $T_9 \cdot T_{10}$ は、低い面のトレンチであり、礫を混じえた青灰色砂層や砂層が堆積するだけで、遺構・遺物は確認できなかった。

出土した遺物(第69図)は、縄文後期初頭($1\sim4\cdot12\cdot13$)、後期末~晩期($5\sim7\cdot11$)の土器片のほか、土器片を利用した円盤状土製品(15)、石箆(16)等が出土している。石器は後期初頭の土器に伴うと推定される。

本遺跡については、現在北本内川を渡る橋が危険なため、工事用の仮橋梁が完成した後に、 T_3 から T_8 にいたる部分について発掘調査を実施することとした。

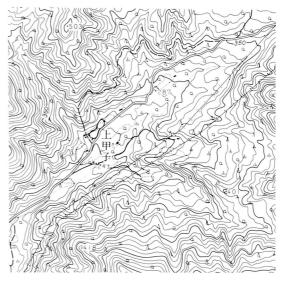
8. 鷹生ダム建設関連調査

(1) 上甲子遺跡(位置図:第70図)

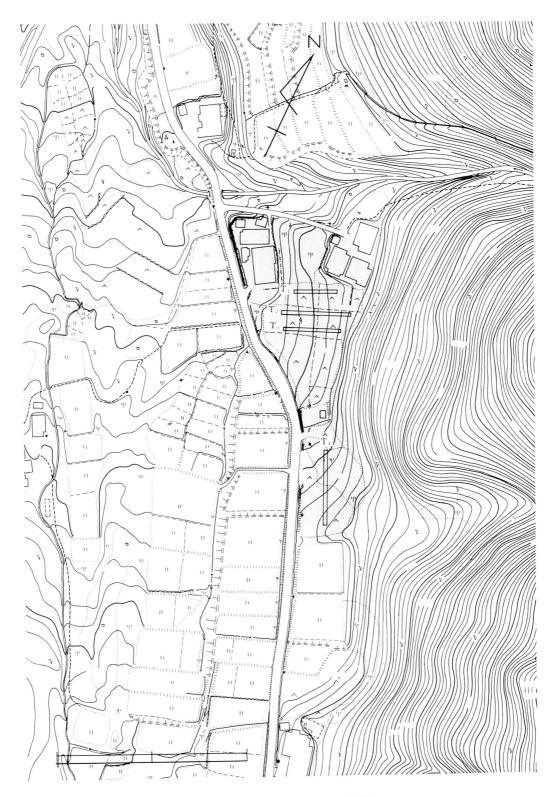
所在地:大船渡市日頃市町上甲子 調査期日:平成5年6月21~23日

遺跡は、大船渡市の北東部、五葉山を水源とする鷹生川の右岸に位置する。周辺は白亜紀の安山岩・砂岩等の基盤が侵食され、河床にそれらの巨礫が散乱する。山際には、小さな沢ごとに崖錐性体積物が発達し緩やかな斜面が形成される。本遺跡もこのような立地をとる。

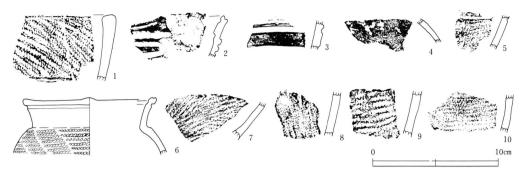
遺跡は宅地等に利用された部分は既に消失していると考えられ、また県道を挟んだ部分については、水田造成により削平され



第70図



第71図 上甲子遺跡トレンチ配置図



第72図 大船渡市上甲子遺跡出土遺物

たと推定する。

 $T_1 \sim T_3$ は、民家の廃棄物等で攪乱されていたが、 $T_2 \cdot T_3$ 中央部付近で、土坑状の落ち込みを検出している。これに隣接する沢によって形成された崖錐部に T_4 を入れ確認したが、表土直下に礫が堆積するのみで、遺構・遺物は検出できなかった。

第72図に出土遺物を掲げた。 1 は縄文後期中葉の深鉢。口唇断面は内側に肥厚する。口縁部文様帯には、やや太目の縄文が縦位回転される。その下位は沈線で区画する。 $2\sim7$ は、弥生時代最初頭に位置付けられるか。高坏(2)、浅鉢(3)、壺($4\cdot6\cdot7$?)、甕(5)等がある。 $8\sim10$ も、胎土や器内面のナデ調整、斜位回転の縄文施文等の特徴から、同時期に属すると思われる。特に 2 は、 T_2 の土坑状落ち込みに伴っており、墓址の可能性も指摘できる。

本遺跡については、湛水部となることから、平成6年度に発掘調査を実施することとした。

9. 県立胆沢病院移転候補地関連調査

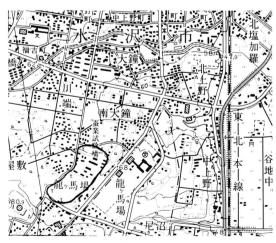
(1) 龍ヶ馬場遺跡(位置図:第73図)

所在地:水沢市龍ヶ馬場

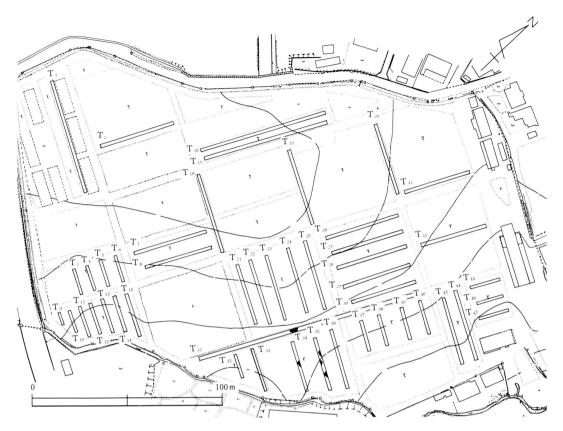
調査期日:平成5年5月20ほか

遺跡は水沢市街地の南方、標高約65mの中位段丘上に位置し、県蚕業試験場となっている。遺物は、この試験場内の随所で採取できたため、事業予定地全体にわたって試掘トレンチを入れ、調査した。

その結果、より高い西側地区については 村崎野浮石層まで削平されており、遺構・ 遺物は確認できなかった。また、東側地区



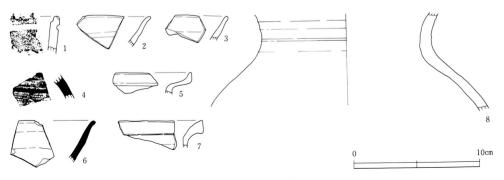
第73図



第74図 龍ヶ馬場遺跡トレンチ配置図

は東端を北流する沢に向かう緩やかな斜面で、その中央部の $T_{31} \cdot T_{34} \cdot T_{35}$ のトレンチで竪穴住居跡状の遺構を複数検出した。ただし、桑畑の植苗による攪乱が著しく、保存状況は悪い。

出土遺物(第57図)は、1の縄文晩期の口縁部破片を除き、いずれも竪穴住居跡付近から出土したものである。須恵器の壺(3)、坏(6)、ロクロ調整の甕(7・8)などから、9世紀後半~10世紀の年代に比定できようか。育成試験中の苗圃については、後日調整、試掘をするが、遺構が検出された地区を中心に、平成6年度に発掘調査を実施することとした。



第75図 水沢市龍ヶ馬場遺跡出土遺物

10. その他の試掘調査

番号	事 業 名	事 業 者	遺跡名	所 在 地	調査期日	備考
1	県営ほ場整備事業・愛宕南部地区	胆江土地改良事業所	落 合	江 刺 市	4/14ほか 説	計変更
2	11 11	"	兎 II	"	// ab	計変更
3	n n	n	力 石	"	" 来	年度発掘
4	n n	"	橋本	"	" 影	計変更
5	"・玉の木地区	"	中 ノ 目	水 沢 市	1/10ほか 来	年度発掘
6	n n	"	太 田 I	11	// an	計変更
7	n n	"	太 田 II	"	<i>"</i>	計変更
8	n n	"	太 田 III	"	" 蚀	重工事
9	n n	n	玉 ノ 木 I	n	" B	計変更
10	n n	n	玉 ノ 木 II	"	// and	計変更
11	県営ほ場整備・駒木	遠野地方振興局農政部	松崎	遠 野 市	11/25	
12	n .	n	駒 木 I	"	11/25,26 世	重工事
13	n	n	駒 木 II	"	12/13-15 発	掘調査
14	"・和賀中央第4	花巻土地改良事業所	上 堀	北上市	12/3 協	重工事
15	農免農道整備事業・晴山	二戸土地改良事業所	外川目IV	軽 米 町	11/11	
16	一般国道395軽米バイパス	二戸土木事務所	向川原 I・II・III	"	11/9 • 10	
17	"	n	沼 田 III	n	11/10	
18	一般国道340号道路改良	岩泉土木事務所	横 道 II	岩 泉 町	12/1	
19	η	"	横 道 III	岩 泉 町	12/2	
20	一般国道397号交通安全施設整備	水沢土木事務所	土 橋	胆 沢 町	12/17	
21	主要地方道二戸田子線	二戸土木事務所	米 田 平	二戸市	11/8	
22	一般県道和賀金ヶ崎胆沢線道路改良	水沢土木事務所	下 鹿 合 東	胆 沢 町	1 /27	
23	"	"	下 鹿 合	"	1 /27	
24	一般県道永沢水沢線道路改良	n	春 慶	金 ヶ 崎 町	1 /28	
25	"	"	踊 子	n	1 /28	
26	鷹生ダム建設	鷹生ダム建設事務所	N F 1 8 - 0 3 3 8	大 船 渡 市	6 /21-22	
27	"	"	N F 1 8 - 1 3 5 6	"	6 /22-23	
28	一般県道東稲前沢線道路改良	一関土木事務所	瀬 原	平 泉 町	12/16 来	:年度発掘
29	崩落防止緊急整備	久慈地方振興局林政部	麦 生 X	久 慈 市	8/5,6	
30	胆沢ダム建設	胆沢ダム工事事務所	大 平 野 II	胆 沢 町	9 /16 掘	削範囲外
31	n	n,	下 尿 前 I	"	9 /17	
32	東北横断自動車道秋田線建設	日本道路公団	本 内 II	湯田町	9 / 29 来	年度発掘
33	n	n	川 尻	"	9 /28	
34	東北新幹線建設	鉄 道 建 設 公 団	川原木	岩 手 町	7/4 来	-年度発掘
35	県営ほ場整備・踊鹿	遠野地方振興局農政部	M F 6 5 - 2 2 4 6	遠 野 市	11/24	
36	11 11	n	晴 山	"	11/24	
37	n n	"	M F 6 5 - 2 2 7 7	n	11/25	
38	n n	"	M F 6 5 - 2 3 4 2	"	11/25	
39	畜産経営環境整備・松尾	盛岡地方振興局林政部		松尾村	6 / 1	

Ⅲ 分布調査

1、県立胆沢病院移転候補地関連調査

事業者:岩手県医療局

第1表 県立胆沢病院移転候補地関連遺跡一覧

平成5年3月22日~24日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N E 26 – 1254	龍ヶ馬場	散布地	縄文土器・土師器・須恵 器	縄文・平安	水沢市龍ヶ馬場	新規	平成6年度発掘調査予定

2、一関遊水地事業関連調査

事業者:建設省東北地方建設局岩手工事事務所

第2表 一関遊水地事業関連遺跡一覧

平成5年3月25日~26日

/13		176-11-11-11	-1, 0,	201 90				
No.	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N E 65 – 2216		墳墓?	塚	近世?	表川村下衣川字並木前	新規	
2	-2236	衣川柵(並木屋 敷)	城館跡	土塁		n n n		伝承地
3	-2247	大手	n			n n n		n
4	-2254	琵琶柵	"			ル ル 川端		II .
5	-2266	泉ヶ城	"			平泉町平泉字泉ヶ城		
6	-2360		散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	衣川村下衣川	新規	
7	-2249	轡森				〃 〃 字七日市場		伝承地
8	-2320	宿 (上宿)	宿場跡			〃 〃 字清水ノ上		"
9	-2341	七日市場	市場跡			〃 〃 字七日市場		"
10	-2351	衣の関道	散布地	土師器・須恵器	古代	<i>n n n</i>		
11	-2343	接待館	"	土塁、土師器	古代・中世	11 11 11		
12	-2333	下宿	"	縄文土器	縄文	〃 〃 字上野		
13	-2346	六日市場	市場跡			〃 〃 字六日市場		伝承地
14	N E 75 – 0302	中尊寺境内	社寺跡 ほか	伽藍遺構・堀、かわらけ 他	縄文~中世	平泉町平泉字衣関		国指定特別史跡
15	N E 76 – 0000	坂下	散布地	かわらけ・陶磁器	古代・中世	リ リ 字坂下		含特別史跡の飛地2カ 所
16	-0055	高館	散布地 城館跡	土塁・堀・段、かわらけ	縄文・古代	リ リ 字柳御所		
17	N E 66 – 1215	月館I	散布地	縄文土器・石器	縄文	〃 長島字月館		
18	-1226	東福寺	散布地 社寺跡	礎石・縄文土器	縄文・中世	n n n		
19	- 1255	新山権現社	散布地	縄文土器・須恵器	縄文・古代	n n n		
20	-1275	二反田館	城館跡	堀	中近世	ル ル 字二反田		
21	-2214	二反田	散布地	縄文土器	縄文	n n		
22	-2224		散布地	"	"	n n		
23	N E 76 – 0204	竜ヶ坂	"	n	n	〃 〃 字竜ヶ坂		
24	-0235	佐藤屋敷	城館跡		中近世	〃 〃 字新田		
25	- 1279	館岡館	散布地 城館跡	郭 (?)・堀 (?)	縄文・中近 世	〃 〃 字館岡		範囲拡大
26	-1383	小島館	n n	縄文土器	77	〃 〃 字古館		
27	-2347	猪岡館	城館跡		中近世	n n 字須崎		
28	-2060	下平	散布地	縄文土器	縄文	ル ル 字下平		

3、家畜改良センター岩手牧場草地造成事業関連調査

事業者:農林水産省家畜改良センター岩手牧場

第3表 岩手牧場草地造成事業関連遺跡一覧

平成 5 年 4 月23日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	K E 86 – 0001		散布地	土器・石器	縄文	滝沢村滝沢25地割大石渡	新規	

4、県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区関連調査

事業者:盛岡地方振興局農政部

第 4 表 県営畜産経営環境整備事業奥羽北部地区関連遺跡一覧

平成 5 年 4 月21日

No	遺跡コード番号	遺 跡 名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	K E 14 – 1005		散布地	縄文土器・石器	縄文	松尾村松尾 5 地割大花森	新規	
2	-1009	大花森IV	"		"			
3	- 0099	大花森VI	"		"			範囲拡大

5、県営ほ場整備事業(小友地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第5表 県営ほ場整備事業(小友地区)関連遺跡一覧 平成5年4月21日~22日

No.	遺跡コード番号	遺 跡 名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 29 – 2171	下川原目	散布地	縄文土器・土師器・須恵 器	縄文·古代	一戸町小友下川原目		
2	39 - 0110	下川原目II	"	縄文土器・石器・須恵器	縄文·古代	一戸町小友字下川原目		範囲拡大
3	38 - 1389	半在家V	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字半在家		
4	39 - 1390	坂の下	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字坂の下		
5	-2010	坂の下Ⅱ	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字坂の下		
6	-2030	坂の下Ⅲ	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字坂の下		
7	38 - 2367	坂の下IV	11	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字坂の下		
8	39 - 2070	椛の木	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字椛の木		範囲拡大
9	48 - 0380	椛の木Ⅱ	11	縄文土器・弥生土器・土 師器	縄文~古代	一戸町小友字椛の木		
10	-0337	椛の木IV	"	縄文土器	縄文・古代	一戸町小友字椛の木		
11	-0380	山井	n	縄文土器	縄文・古代	一戸町小友字山井		
12	-0355	山井II	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町小友字山井		
13	-1302	山井III	"	縄文土器	縄文・古代	一戸町小友字山井		
14	- 1320	山井V	"	縄文土器	縄文・古代	一戸町小友字山井		

6、一般農道整備事業(赤屋敷地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第6表 一般農道整備事業(赤屋敷地区)関連遺跡一覧 平成5年4月21日~22日

Na	遺跡コード番号	遺 跡 名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 28 – 1284	赤屋敷	散布地	縄文土器・土師器	縄文・古代	一戸町月館字赤屋敷		

7、広域農道整備事業(軽米九戸地区)関連調査

事業者:二戸土地改良事業所

第7表 広域農道整備事業(軽米九戸地区)関連遺跡一覧

平成5年4月8日~9日

Nα	遺跡コード番号	遺 跡 名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	I F63-1342	長倉II	散布地	縄文土器 (前期)	縄文	軽米町長倉字菖蒲久保	新規	
2	-1383	長倉小学校校庭	"	" (後期)	縄文	n n n		
3	-2309	長倉I	集落跡	"・土師器	縄文・古代	〃 〃 字一本木		長倉I・Ⅱを統合
4	I F 64 - 2034	長倉III	散布地	" (前期・中期)	"	n n n	範囲拡大	

8、県営ほ場整備事業(徳田第一地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第8表 県営ほ場整備事業 (徳田第一地区) 関連遺跡一覧 平成5年4月6日~7日

Nα	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	L E 47 – 2034	十文字	散布地	土師器	平安	矢巾町西徳田十文字	新規	
2	L E 57 - 0001	谷地中 I	"	"・須恵器	"	" 北郡谷地中		
3	L E 47 – 2078	谷地	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	" " 谷地	新規	
4	L E 57 - 0124	舞地	"	土師器	平安	〃 間野々舞地	"	
5	-0181	岡村	"	ッ・須恵器	"	" " 岡村		
6	-1038	北郡山	城館跡	n	古代?	〃 北郡山		
7	-1050	樋口	散布地	"	古代	〃 〃 樋口		
8	-1063	田中	"	"	"	<i>" "</i> 田中	新規	
9	-1077	蓬田	"	n	"	" " 蓬田	"	

9、北上川上流・日形地区築堤事業関連調査

事業者:建設省岩手工事事務所

第9表 北上川上流・日形地区築堤事業関連遺跡一覧

平成6年1月18日

1	No.	遺跡コード番号	遺 跡 名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
	1	O E 29 – 2146	中神四日市	散布地	土師器	平安	花泉町日形字中神	新規	自然堤防上

10、県営ほ場整備事業(和賀中央第四地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第10表 県営ほ場整備事業(和賀中央第四地区)関連遺跡一覧 平成5年6月3日~4日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	ME 44-2121		散布地	土師器	古代	北上市和賀町横川目36	新規	
2	-2243	羽場	"	縄文土器	縄文	〃 〃 竪川目下組		

11、農免農道整備事業(新町第一地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第11表 農免農道整備事業(新町第一地区)関連遺跡一覧 平成5年4月3日 \sim 4日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	MD28-1190		散布地	縄文土器・石器	縄文	沢内村大字新町	新規	

12、一般農道整備事業(豊畑地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第12表 一般農道整備事業(豊畑地区)関連遺跡一覧

平成 5 年 4 月21日~22日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 93 - 0055	豊畑II	散布地	縄文土器	縄文	安代町細野豊畑		範囲拡大

13、農免農道整備事業(奥玉北地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第13表 農免農道整備事業(奥玉北地区)関連遺跡一覧

平成5年4月19日~20日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N F 81 – 1358		散布地	縄文土器	縄文	千厩町奥玉字中日向	新規	
2	82 – 1051		"	縄文土器・石器	"	千厩町奥玉字中日向	11	
3	-1054		"	石器	n	千厩町奥玉字物見石	11	事業地外
4	-1055		"	縄文土器・石器	"	千厩町奥玉字物見石	"	
5	-1068		"	縄文土器	"	千厩町奥玉字物見石	"	一部削平、事業地外

14、土地改良総合整備事業(東部徳田地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第14表 土地改良総合整備事業(東部徳田地区)関連遺跡一覧 平成5年5月13日~14日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	L E 47 – 2256	渋川	集落跡	土師器・須恵器	古代	矢巾町大字東徳田字幅		
2	-2168	重島	散布地	土師器	平安	矢巾町大字間野々	新規	
3	-2284	常光坊	"	縄文土器・土師器	縄文・平安	矢巾町大字東徳田常光坊	"	
4	-2197	天王	"	縄文土器・土師器	縄文・平安	矢巾町大字間野々字天王	"	
5	57 – 0253	新山	"	土師器	平安	矢巾町大字土橋字新山	"	
6	- 0351	権現堂	集落跡	土師器	古代	矢巾町大字東徳田		

15、岩手県農業研究センター県北農業技術センター(仮称)関連調査

事業者:岩手県農政部

第15表 岩手県農業研究センター県北農業技術センター(仮称)関連遺跡一覧

平成5年5月17日~18日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	I F82-2012	和当地I	散布地	縄文土器・石器	縄文	軽米町山内字和当地		範囲拡大

16、県営ほ場整備事業(宮野目第一地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第16表 県営ほ場整備事業 (宮野目第一地区) 関連遺跡一覧 平成5年5月19日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	ME 16-1229		散布地	土師器	古代	花巻市宮野目字田力	新規	
2	-1359	(柏葉城跡)	城館跡		中·近世	花巻市宮野目字田力		伝承地

17、水環境整備事業(乙女川地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第17表 水環境整備事業 (乙女川地区) 関連遺跡一覧 平成5年4月19日~20日

No	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N E 16 – 2018	石田	集落跡	土師器・須恵器	古代	水沢市西光田		
2	-2111	水山	散布地	n • n	古代	水沢市西光田		

18、国道340号道路改良工事(岩泉町横道地内)関連調査

事業者:岩泉土木事務所

第18表 国道340号道路改良工事(岩泉町横道地内)関連遺跡一覧 平成5年7月1日~2日

Nα	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	K F 46 - 0345	横道II	散布地	土師器	古代	岩泉町門字中瀬		
2	-0329		"	縄文土器	縄文	11 11 11	新規	
3	K F 47 – 0032	中瀬Ⅱ	"	"	"	" " 水上		
4	-0181	水上	"	,n	"	11 11 11		

19、県営ほ場整備事業(湯本第四地区)関連調査

事業者: 岩手県農政部

第19表 県営ほ場整備事業 (湯本第四地区) 関連遺跡一覧

平成5年5月19日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	ME 15-0239		散布地	土師器	古代	花卷市湯本字狼沢	新規	
2	-0294	椚ノ目	"			花巻市湯本字椚ノ目		養林寺跡を含む

20、県営畜産経営環境整備事業 (軽米・九戸地区道路改良工事) 関連調査

事業者:建設省東北地方建設局岩手工事事務所

第20表 県営畜産経営環境整備事業(軽米・九戸地区道路改良工事)関連遺跡一覧

平成5年12月21日~22日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J F02-1172	江刺家館	城館跡	郭・堀・土塁	中世	九戸村江刺家第10地割		
2	-1162		散布地	土師器	古代	九戸村江刺家第10地割	新規	
3	-1059	江刺家 I	集落跡	縄文土器・土師器	縄文・古代	九戸村江刺家第10地割		範囲拡大
4	-1044	江刺家IV	"	土師器	"	九戸村江刺家第10地割		

21、県営ふるさと農道緊急整備事業(福伏・牧田地区)関連調査

事業者:大船渡地方振興局農林部

第21表 県営ふるさと農道緊急整備事業(福伏・牧田地区)関連追跡一覧

平成5年8月30日~9月1日

Nα	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N F 76 – 1315	牧田	貝塚・ 城館跡	郭、縄文土器・石器	縄文・中世	陸前高田市気仙町字牧田		範囲拡大

22、黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連調查

事業者:水沢土木事務所

第22表 黒沢川地方特定河川等環境整備事業関連遺跡一覧 平成5年9月21日~22日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N E 05 – 0378	五葉館	城館跡		中世	金ヶ崎町西根横道		

23、主要地方道水沢人首線(桜沢地区)道路改良事業関連調査

事業者:水沢土木事務所

第23表 主要地方道水沢人首線(桜沢地区)道路改良事業関連遺跡一覧

平成5年9月21日~22日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	N E 16 – 0381	下河原釜石	散布地	土師器	平安	水沢市佐倉河字釜石		
2	-0365	佐野原	集落跡	土師器・須恵器・石器	縄文・平安	" " 字佐野原		

24、かんがい水路建設事業 (一方井地区) 関連調査

事業者: 岩手北部土地改良事業所

第24表 かんがい水路建設事業 (一方井地区) 関連遺跡一覧

平成5年9月24日

Nα	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 96 – 2138	倍田	散布地	土器・石器	縄文	岩手町一方井字黒内		
2	K E 06 - 0245	黒内IX	集落跡	土器	"	<i>11 11 11</i>		
3	-0214	黒内Ⅷ	"	土器・石器	"	n n n		事業地に隣接

25、国道45号普代バイパス建設事業関連調査

事業者:建設省三陸国道工事事務所

第25表 国道45号譜代バイパス建設事業関連遺跡一覧 平成5年6月7日~8日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	K G 02 - 0109		散布地	縄文土器	縄文	普代村12地割字中村		
2	J G 92 – 2272	普代	集落跡	n ・石器	"	〃 10地割字羅賀		範囲拡大
3	-2211					〃 8 地割字太田名部		可能性あり
4	-1252		散布地	縄文土器	縄文	〃 14地割字宇留部	新規	
5	-1119		"	n	"	n n n	"	
6	-0137	力持	集落跡	ル ・石器	"	〃 16地割字天拝坂		範囲拡大・遺物密集
7	-0117		散布地	n	"	〃 17地割字野胡桃	新規	

26、農免農道整備事業(松石地区)関連調査

事業者:岩手県農政部

第26表 農免農道整備事業(松石地区)関連遺跡一覧 平成5年5月27日~28日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種 別	遺 構・遺 物	時 代	所	在地	新発見 の有無	備 考
1	K F 58 – 1373	馬立I	散布地	土師器・須恵器	古代	岩泉町袰綿	碁石峠		
2	-1371	馬立II	"	n • n	n	11 11	n		
3	-1289	馬立III	"	縄文土器・土師器	縄文・古代	" "	〃、馬立		
4	-1149	袰綿御所	城館跡			n n	稲荷		伝承地

27、一般農道整備事業 (滝地区) 関連調査

事業者:岩手県農政部

第27表 一般農道整備事業 (滝地区) 関連追跡一覧

平成5年5月27日~28日

Nα	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J F48-2244		散布地	縄文土器	縄文	久慈市大川目町滝	新規	

28、農免農道整備事業 (五日市湯沢地区) 関連調査

事業者:岩手県農政部

第28表 農免農道整備事業 (五日市湯沢地区) 関連遺跡一覧 平成5年7月19日~20日

							Arr DN E1	
No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 44 - 2045		散布地	縄文土器	縄文	安代町滝ノ又	新規	
2	-2037		"	"	"	n n	"	
3	- 2086		"		"	n n		可能性あり
4	-1377	山内鋳銭場	鋳銭場		近世	净法寺町大字大清水湯沢		壊滅?
5	J E 45 – 1082	湯沢I	散布地	縄文土器	縄文	<i>n n</i>		
6	-2012	湯沢II	集落跡	n	"	" " "		事業地外
7	-2025	湯沢III	211	n	"	n n n		
8	-2027	湯沢V	11	n	n	n n n		
9	-2028	湯沢VI	散布地	η	"	n n n		
10	-2029	湯沢VII	"	"	"	n n n		
11	-2026	湯沢IV	"	n	"	" " "		

29、ふるさと農道緊急整備事業(目名市地区)関連調査

事業者: 岩手北部土地改良事務所

第29表 ふるさと農道緊急整備事業(目名市地区)関連遺跡一覧 平成5年8月27日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	J E 54 – 1137		散布地	縄文土器	縄文	安代町目名市	新規	
2	-1156		"	n,	"	n n	"	
3	-2105	上の山I	"	"	"	″ 上の山		
4	-2123	上の山III	集落跡	η	n	" "		
5	-2124	上の山II	n	n	11	п п		
6	-2154	上のμιν	"	"・土師器	縄文・古代	n n		範囲拡大

30、ふるさと農道緊急整備事業(紫波中央地区)関連調査

事業者:盛岡南部土地改良事業所

第30表 ふるさと農道緊急整備事業(紫波中央地区)関連遺跡一覧 平成5年9月9日~10日

No.	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺 構・遺 物	時 代	所 在 地	新発見 の有無	備考
1	L E 66 - 0393	日詰七久保	散布地	須恵器	平安	紫波町日詰字七久保		
2	-0312	平坊Ⅲ	集落跡	土師器	11	〃 陣ヶ岡字平坊		
3	-1370	桜町上野沢	散布地	縄文土器・土師器・須恵器	縄文・古代	が 桜町上野沢		

IV 写真図版



前沢町大桜遺跡1号住居跡



前沢町大桜遺跡2号住居跡



前沢町大桜遺跡3号住居跡



前沢町大桜遺跡竪穴状遺構









大桜遺跡1号住居跡出土遺物





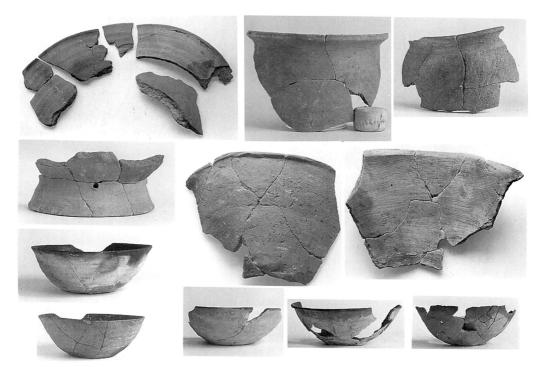








大桜遺跡ピット出土かわらけ

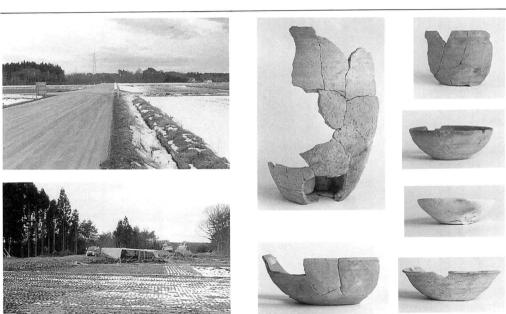


前沢町目呂木本杉遺跡出土遺物

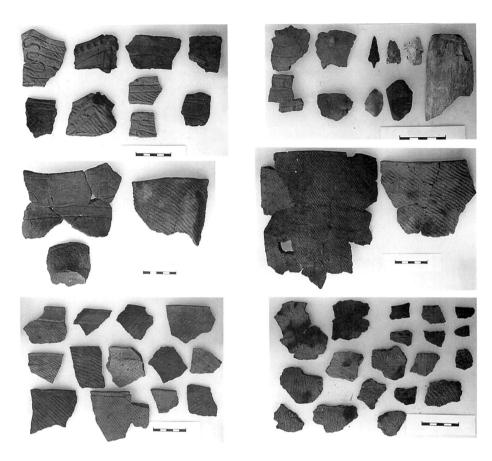


江刺市観音堂沖遺跡出土遺物





前沢町明後沢遺跡調査風景



一戸町北館G遺跡出土遺物



大迫町人中遺跡出土遺物



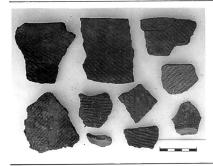
湯田町本内II遺跡出土遺物



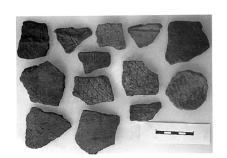
陸前高田市牧田貝塚出土遺物



種市町ゴッソー遺跡出土遺物



田野畑村浜岩泉遺跡出土遺物



北上市本内遺跡出土遺物(1)



北上市本内遺跡出土遺物(2)



大船渡市上甲子遺跡出土遺物



水沢市龍ヶ馬場遺跡出土遺物

岩手県文化財調査報告報告書第95集

岩手県内遺跡発掘調査報告書(平成5年度)

発行日 平成6年3月

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

印刷 ㈱ 杜 陵 印 刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号